

# 官報

號外

明治三十九年三月十一日 日曜日 印刷局

## 第二十二回 帝國議會 衆議院議事速記錄第十四號

明治三十九年三月十日(土曜日)午後一時九分開議

議事日程 第十三號 明治三十九年三月十日

午後一時開議

- 第一 輸出羽二重精練業法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第三 韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第五 裁判所構成法中改正法律案(加瀬禮逸外) 第一讀會
- 第六 辯護士法中改正法律案(加瀬禮逸外) 第一讀會
- 第七 蠶病豫防法中改正法律案(坂名信平外) 第一讀會
- 第八 議院法中改正法律案(藤金作外) 第一讀會
- 第九 債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律案(高橋安爾外) 第一讀會
- 第十 屯田兵土地給與規則廢止法律案(石井信) 第一讀會
- 第十一 明治三十年法律第四十二號廢止法律案(石井信) 第一讀會
- 第十二 新聞紙條例中改正法律案(橫井時雄外) 第一讀會
- 第十三 質屋取締法中改正法律案(藤崎朋之外) 第一讀會
- 第十四 高等染織專門學校増設ニ關スル建議案(長崎六名) 委員長報告
- 第十五 萬國博覽會開設ニ關スル建議案(竹内正志外) 委員長報告
- 第十六 催眠術取締ニ關スル建議案(安藤新太郎) (委員長報告)
- 第十七 日本體育會國庫補助ニ關スル建議案(山根正次外) 第一讀會
- 第十八 市町村立小學校教員俸給國庫補助ニ關スル建議案(根正外五名) 第一讀會

○議長(杉田定一君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

官報號外 明治三十九年三月十一日(三月三十一日第三種郵便物認可)

衆議院議事速記錄第十四號 議長ノ報告

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

提出者 關 春 茂君 寺井 純司君 菊池 武徳君

齒科醫師法案

提出者 青柳 信五郎君 初木 卿太郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案

提出者 森 本 駿君 大津 淳一郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案

提出者 波多野 傳三郎君 江藤 新作君

一望月長夫君ヨリ警視廳及檢事局ノ不法行為ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレ

タリ (左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

警視廳及檢事局ノ不法行為ニ關スル質問

右成規ニ據リ提出候也

明治三十九年三月十日

提出者 望月 長夫

贊成者 大石 熊吉

外三千五百名

警視廳及檢事局ノ不法行為ニ關スル質問主意書

一明治三十八年九月五日騷擾事件ニ關シ警視廳官吏カ吉澤不二雄ナル者ニ

對シテ不正ノ手段ヲ以テ虛構ノ事實ヲ陳述セシメ強ヒテ良民ヲ羅織シタル顛末

ハ明治三十九年二月二十六日吉澤不二雄カ東京地方裁判所ニ於テ明言セ

シ處ニシテ之ヲ他ノ全體ノ事實ニ綜合スレハ殆ト一點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ政

府ハ如何ニ當該官吏ノ處分ヲサントスル乎

一元東京地方裁判所檢事正奥宮正治ハ前段ノ事實ヲ關知シ又自ラ吉澤不二

雄ヲ呼出シテ虛構ノ陳述ヲ德憑シタル形迹アリ政府ハ之ニ對シテ如何ナル處分

ヲサントスル乎

右質問ス政府ハ至急答辯アラント望ム

一貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

一內國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案

一貴族院ハ本院送付ニ係ル政府提出陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計終結

ニ關スル法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

一今日西園寺內閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員任命相成リタル旨ノ通牒ヲ受

領セリ

內務省所管事務政府委員被仰付 內務書記官 井 上 友 一

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一指定セラレタル委員左ノ如シ

市制改正法律案外二件

多田 作兵衛君 神前 修三君

立川 雲平君 齋藤 珪次君

丹後 直平君

瀧口 吉真君

阿部 德三郎君 古井 由之君 久保 彦太郎君  
 藤 昌 巖君 由 布 惟義君 望月 長夫君  
 飯島 省三郎君 肥 塚 龍君 青地 雄太郎君  
 佐藤 庫喜君 森田 卓爾君 石田 仁太郎君  
 井上 與一郎君 奥村 善右衛門君 荒川 五郎君  
 小 河 源一君 山口 小一君 關 信之介君  
 鈴置 倉次郎君 板 倉 中君 橋 本 大吉君

質屋取締法中改正法律案  
 磯部 四郎君 中澤 楠爾太君 林 小 參君  
 北島 具雄君 澤田 耕治郎君 角田 眞平君  
 矢 島 中君 藤崎 朋之君 橋 本 久太郎君

四幹線鐵道敷設ニ關スル建議案外一件  
 美 稱 龍彦君 萩野 芳藏君 坂元 英俊君  
 田中 定吉君 石 井 信君 宮本 嘉樂君  
 齋藤 宇一郎君 清水 隆徳君 河 上 英君  
 石田 孝吉君 木下 謙次郎君 内 藤 利八君  
 松井 源内君 大 繩 久雄君 城 重 雄君  
 江 藤 香藏君 小澤 愛次郎君 遊田 研吉君  
 福島 勝太郎君 星野 仙藏君 神崎 東藏君  
 武市 庫太郎君 横山 一平君 鈴置 倉次郎君

一委員長及理事左ノ通稱選セラレタリ  
 市制改正法律案外一件  
 委員長 多田 作兵衛君 理事 阿部 德三郎君  
 青地 雄太郎君  
 荒川 五郎君

質屋取締法中改正法律案  
 委員長 磯部 四郎君 理事 藤崎 朋之君  
 四幹線鐵道敷設ニ關スル建議案外一件  
 委員長 佐竹 作太郎君 理事 内藤 利八君  
 荻野 芳藏君

體育ニ關スル建議案委員會  
 委員長 小澤 愛次郎君 理事 星野 仙藏君  
 ○議長(杉田定一君) 是ヨリ會議ヲ開キマス——御諮リ申スコトガアリマス、山本繁  
 造君ヨリ病氣ニ付、三月八日ヨリ二週間請假ガ出テ居リマス、許可シテ御異議ハアリ  
 マセヌカ

(一)異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ  
 ○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——山根正次君  
 ○山根正次君 私ハ請求ヲ致シマスルガ、是ヨリ廢兵院ノ委員會ヲ開キタウゴザイマス  
 カラ、御許可ニナリタウゴザイマス  
 ○議長(杉田定一君) 廢兵院ノ委員會ヲ開キタイト云フ申出デアリマス、許可シテ御  
 異議ハアリマセヌカ  
 (二)異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス  
 ○小澤愛次郎君 是カラ體育ニ關スル委員會ヲ開キタウゴザイマスセカ、議場ニ轉諮  
 リガ願ヒタス  
 ○議長(杉田定一君) 體育ニ關スル委員會ヲ是カラ開會致シタイト云フコトゴザイ  
 マスガ、御異議ハゴザイマセヌカ  
 (一)異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ  
 ○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——尙御諮リ申スコトガアリマス、由  
 布惟義君、病氣ノタメ、市制改正法律案外二件ノ委員辭任ヲ願出ラレテ居リマスガ、  
 許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(二)異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ  
 ○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、該委員ノ補闕トシテ古賀庸藏君ヲ  
 指名致シマス、尙御諮リ申スコトガアリマス、本出保太郎君病氣ノタメ、宅地地價修正  
 法律案外一件ノ委員辭任ヲ願出ラレテ居リマスルガ、許可シテ御異議ハアリマセヌカ  
 (一)異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ  
 ○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、該委員ノ補闕トシテ植場平君ヲ指  
 名致シマス——望月長夫君

(望月長夫君登壇)  
 ○望月長夫君 諸君、私ハ警視廳竝ニ検事局ノ不當行為ニ關スル質問ヲ本日提出  
 シマシタカラ、其提出ノ理由ヲ簡單ニ陳述致シタイト思ヒマス、先ヅ質問ノ主意ヲ此處  
 テ朗讀致シマスルガ  
 一明治三十八年九月五日 騒擾事件ニ關シ警視廳官吏カ吉澤不二雄ナル者ニ對  
 シテ不正ノ手段ヲ以テ虛構ノ事實ヲ陳述セシメ強ヒテ良民ヲ羅織シタル顛末ハ明  
 治三十九年二月二十六日吉澤不二雄カ東京地方裁判所ニ於テ明言セシ所ニ  
 シテ之ヲ他ノ全體ノ事實ニ綜合スレハ殆ト一點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ政廳ハ如  
 何ニ當該官吏ノ處分ヲサントスル乎  
 一東京地方裁判所檢事正奥宮正治前段ノ事實ヲ關知シ又自カラ吉澤不二雄  
 ヲ呼出シテ虛構ノ陳述ヲ懲息シタル形迹アリ政府ハ之ニ對シテ如何ナル處分ヲナ  
 サントスル乎

是ガ私ノ質問ヲ致シマスル趣意テゴザイマス、本年二月二十六日ノ公判廷ニ於テ突  
 然吉澤不二雄ナルモノ、口ヨリ出デマシタ極メテ奇怪ナル事實ハ、唯今私ガ此場所デ  
 述ベマセトモ、既ニ諸君ガ十分御諒知ノ都下大小ノ新聞紙ハ、悉ク之ヲ掲ゲテ餘蘊  
 ハナイテアル、此事實ニ付イテ、既ニ諸君ノ諒知セラル、事柄デ、私ガ茲ニ三重テ繰返  
 ス必要ハナイノアル、ソレ故ニ私ハ被告一人ノ一人タル吉澤不二雄ナル者ニ向テ、先  
 ヲ第一ニ警視廳ガ何故ニ是ノ如ク被告一人ノ一人タル吉澤不二雄ナル者ニ向テ、虛構  
 ノ事實ヲ申立テシムルニ至ツタカ、其原因ハ何ノタメアルカト云フコトヲ、索究スル必要  
 ガアル、公判廷ニ現ハレタ事實カラ申スト、彼レ吉澤不二雄ノ陳述ニ依リマスレバ、警視  
 廳ハ二六新聞ト多年ノ敵デアル、二六新聞ヲ倒セバ、目的ヲ達スルノアル、今度ノ事  
 件ニ付イテ、二六新聞ノ人ガ主動デアルト云フコトヲ言フテ呉レ、バ、ソレレ誠ニ満足スルノ  
 デアルカラ、左様ニシテ呉レト云フ頼ミヲ受ケタト、斯様ニ吉澤不二雄ハ言ウテ居ルノデ  
 アル、此理由ハ私ハ之ヲ信シタクナイノアル、是ハ唯吉澤不二雄ナル者ノ人格ガ、諸君  
 ノ諒知セラル、ダケノ價値シカナイ男デアルカラ、若シ當時警部其他ノ其局ニ當ツタ者ノ  
 口ヨリ、斯様ナ言葉ヲ申シタト致シマシテモ、是ハ唯人格ノ低キ吉澤不二雄ノ了解易  
 キ理由ヲ以テ誘ウタニ過ギヌト私ハ考ヘルノアル、然ラバ其眞ノ原因ハ何處ニアルカト

云フコトヲ考ヘテ見マズレバ、其ハマツト深イ大キイトコロノ其原因ガアラウト、私ハ想定スルノデアル、御承知ノ通、昨年九月五日ヨリ七日ニ亘リ騷擾ハ、其主ナルモノヲ申シマズレバ、内務大臣官邸ノ燒討トカ、國民新聞社ノ襲撃トカ、府下ノ警察本分署屯所ノ燒討トカ、其他多ク重大ナル出來事ヲ生ジ、茲ニ彙叙スニ不詳ナル戒嚴令ヲ實施スルノ餘儀ナキニ至リ、重大事件デアル、又他ノ一面ヨリ觀察致シマスレバ、當時警察廳ハ輿論ノ攻撃ノ燒點ニナリ、特ニ其本分署ナカハ多ク燒棄サレテ、即チ當時被害ノ一被害者ノ最モ直接ナルモノデアル、斯様ナ結果ヲ生ジタノモ、無論彼ノ「ボートマス」ニ於ケル講和條約ノ條件ガ、極メテ不十分ニシテ、國民ノ共ニ憤ルコトナリ、最モ直接ノ原因トシテハ、彼ノ國民ノ大會ニ對スル當該警視廳ノ防遏——此防遏手段ガ、最モ都下ノ人心ヲ激動セシメ、唯今申サユウナ重大ナル理由ヨリシテ、都下ノ人心ガ期セズシテ即チ始メヨリ何等ノ約束スルトコロモナク、何等ノ申合ヲ致ストコロモナクシテ、偶然的ニ一時ニ勃發シタモノデアルト云フコトハ、極メテ明白ナクハゴザイマスケレドモ、彼等ハ是ヲ唯今申サユウナ、講和條約ノ條件ノ不十分、及警視廳ノ防遏手段ニ對スル國民公憤ノ勃發ナリト申スコトハ、要スルニ當時ノ政府及已等直接ニ當局者ノ失敗ヲ暴露スルコトニ相成ルノデアリマスルカラ、成ルベクハ是ヲ二三ノ人ノ煽動ニ出デタルモノトシ、即チ科人ヲ拵ヘテ其科ニ塗付ケヤウト致シ、且一面ニ於テハ自家ノ——即チ自分等ガ此市民ニ非常ナル攻撃ヲ受ケタル、警視廳ヲ散ラサントスルガタメニ、遂ニ是ノ如キ無理ナ手段ヲ以テテモ、或有數ノ人ヲ羅織セントスルニ至ッタノデアルト云フコトハ、事後ノ總テノ事實ヲ綜合致シテ觀察致シマスレバ、是ノ如ク當時ノ——當初ノ原因ヲ推斷致シマスルコトハ、決シテ適當ノ事柄デナイト私ハ考ヘルノデ、然ルニ其際警視廳ノ都下ノ一千以上ニモ垂ントスル長民ヲ捕縛ヲ致シテ、一々是ヲ糾彈ヲ致シテ、何カ手掛リニテモノヲ得ヤウト目論見タケレドモ、終ニ何等ノ手掛リ得ルトコロガナイカラシテ、彼ノ人格ノ卑クシテ勢利ヲ以テ誘ヒ易キ、脅迫シテ命ニ應ゼシメ易キ吉澤不ニ雄ヲ誘惑スルニ至ッタノデアルト云フコトハ、殆ド一弊ヲ容レズト私ハ考ヘルノデア

ル、既ニ原因ガ是ノ如ク、即チ政府當局ノ外交上ノ失策ヲ蔽ヒ、及當時ノ政府ノ國民ノ言論集會ニ對スル、防遏手段ノ攻撃ヲ避クルガタメニ出タトスレバ、此事柄ハ決シテ下級ノ警部ヤ、特務巡查位ノ發意ニ出デタルモノデナクシテ、其上ノ方ニ使職者、少クモ默認者ハ、頗ル目ノアルモノト私ハ考ヘテ居ルノデア

ル、隨テ其責任ヲ負フベキ人ノ幅モ、決シテ下級ナル特務巡查ヤ警部ニハ止マラスト私ハ信ジテ居ルノデア

ル、斯様ニ申シタトコロテ、唯原因ガケテ申シタノデアリマスルガ、斯様ナ原因ヨリシテ、終ニ如何ナルコトヲ致シタカ、此事ハ概略既ニ諸君ガ御承知ノコトデア

ルカラ、私ハ極ク簡單ニ述ベマスルガ、此吉澤不ニ雄ナル者ニ對シテ、當該官吏ガ如何ナル誘惑ヲ用井タカト云フコトニ付イテハ、公判廷ニ現ハレタ一事、及訪問ノ辯護士諸君ノ搜查セラレタ事實、其他ニ依テ推斷ヲ下シマスレバ、或ハ吉澤不ニ雄ガ最モ不徳ト致シ居ル遠ク東京ヲ離レテ、他ノ事件ヲ名トシテ千葉ノ監獄署ヘ移サゲト云フ便迫、又警視廳ニ於テ或ハ妻トカ子トカ云フ者ヲ、屢々吉澤不ニ雄ニ面會セシメ、特ニ當該吏員ガ父子ノ愛情、夫妻ノ愛情ナシカヲ説イテ、其最モ感シ易キ愛情ニ訴ヘ、更ニ進ンデ被告ハトシテハ、決シテ左様ナ待遇ヲ與ヘラレナイ、國事犯者ノ名ヲ付テ左様ナ待遇ヲ與ヘナイ、或ハ洋食ヲ供與スルコトカ、或ハ煙草ヲ給與スルコトカ云フヤウナコトヲ致シ、更ニ進ンデ金錢ヲ給與スルニ至ッタノデア

ル、尤モ此金錢ヲ給與ニ付イテハ、勿論受取證書ノ存在シテ居ル譯デア

ルゴザイマセヌ、日ヲ經タトデア

ルカラ、關係者ノ陳述ガ悉ク一致ヲ致シテ居ルト云フ譯デア

ルゴザイマセヌケレドモ、先ツ最初ニ妻ガ五圓ノ金ヲ貰ヒ、且月二十五圓ヲ支給ヲシテヤルト云フ約束ヲ受ケ、次ニ吉澤不ニ雄ニ依レバ、百圓程ヤッタト云フ

云フガ、妻ノ言葉ニ依ルト十圓札ヲ五枚カ、即チ五十圓ヲ貰ッタ言ウテ居ルガ、少ナイ方ニ見テモ五十圓ノ金ヲ與ヘ、サウシテ所謂兇徒贖罪ノ主動者トナスニ足ルベキ人ガ、豫審ニ附セラル、ニ至レバ、其成功ノ報酬トシテ三百圓乃至五百圓ノ金ヲ遺ルト云フ約束ヲ致シタト云フ事柄ハ、斯ク關係者ノ供述ガ一致ヲ致シマスルカラ、少クモ斯様ナ金錢ノ給與、若クハ給與ノ約束ヲ致シテ、彼ノ心ヲ誘ウタト云フコトモ、殆ド今日ハ爭フコトノ出來ナイコトデア

ル、尙進ンテ更ニ此吉澤不ニ雄ナル者ヲ安心セシムルガタメニ、即チ彼ヲシテ安心シテ虛偽ノ陳述ヲナスコトヲ承諾セシムルガタメニ、公然ト云フ言葉ハコリヤ語弊ガゴザイマセウガ、明瞭ニ彼ニ分ルヤウニ、警部ヨリハ彼ノ無罪ヲ保證致シ、即チ檢事正ヘモ其事ガ頼シテ居ルカラ安心シテ居レト言ヒ、且現ニ放免セラレタ者ノ證據ヲ示シテ斯様ニ請合ヒ、又特ニ與宮檢事正ニ引合セテ、彼ヲシテ暗黙ノ間ニ承知ヲシテ居ルガ如キ態度ヲ示サシメ、即チ唯今申シタヤウナ趣意ノ誘惑、若クハ脅迫ヲ用井テ、廣キ意味ノ言葉ニ於テ、即チ吉澤不ニ雄ナル者ヲ買收シテ、サウシテ其結果トシテ、彼ノ四回ニ亘リタル聽取書、即チ警視廳警部宮内宗之助ナル名ヲ署シテ、官印ヲ捺シタ聽取書ガ出來タノデア

ル、此聽取書ト云フモノモ、既ニ新聞紙ニ於テ公ニナツテ居リマスルシカラ、是ヲ私ガ諄々シク述べル必要ハナイガ、其最モ重モナル點ニ於テモ、或ハ五月三日ノ夜、佃信夫ノ宅ニ於テ、佃信夫、福田和五郎、櫻井熊太郎、大竹貫一、小川平吉、秋田清平ノ會合シテ、爆裂彈ヲ示シテ、其爆裂彈ハ横須賀カラ得ル方法ガ付イテ居ルカラシテ、之ヲ重モナル所ヘ持ッテ往リテ、抛リ込メト云フヤウナ相談ヲ致シタトカ、又九月五日ノ日ニハ佃トカ福田等ガ、内相ノ官邸ヲ燒打ニ往ル者、國民新聞社ヘ暴込ニ往ル者ナシカノ役割ヲ致シ、自分ハ警視廳ヲ攻撃スル依頼ヲ受ケタナド、云フヤウナ、今日ニ至リテ殆ド一笑ニタモ價シナイヤウナ虛偽ノ事實ヲ麗々シク記載サレタ聽取書ガ、都合四回マデニ涉ッテ作製セラレ、サウシテ是ノ如クシテ結果ガドウナツタカト云フト、終ニ河野トカ、山田トカ、小川トカ、大竹トカ、其他ノ今日新聞紙ニ於テ名士ト謂ハレテ居ル人ミノ拘引トナリ、久シク監獄内ニ苦痛ヲ嘗メタ結果、是等ガ根據ニナツテ起訴サレタ、彼ノ内相邸ノ燒討トカ、國民新聞襲撃トカ云フヤウナ、總テノ事柄ニ付イテハ、是等ノ人ミハ悉ク豫審ニ於テ免訴ニナッタノデア

ル、即チ此虛構ノ聽取書ハ、檢事起訴ノ根據ニナツテ、サウシテ之ガタメ多クノ名士ヲ羅織シ、羅織シタ結果、多クノ人ニ非常ナル苦痛ヲ與ヘ、纒ニ豫審ヲ開クヤ、直チニ其虛構ナルコトガ明白ニナツテ、悉ク免訴サレタノデア

ル、是ノミ以テシマシテモ、是等ノ人ミノ行為、是等當該官吏ノ行為、私ハ決シテ監督官廳ノ放任シ置クベキ事柄デナイト確信スルノデア

ル、少シク精密ニ申シテ見マスレバ、曩ニ述ベマシタ、彼ノ吉澤不ニ雄ノ妻ニ與ヘタ金ハ何デア

ルカ、彼ノ費用ハ總テ警視廳ノ巡查其他ノ者カラ得タト云フテ居ル、獨リ最モ金ノ高ノ多ク、妻ガ言ハハ五十圓、夫ガ言ハハ百圓ト申シテ居ル金ハ、其言葉ニ依ッテ見ルト、警視廳内ニ於テ日本橋數寄屋町ノ待合ノ主人トカニ貰ッタト云フコトヲ言ウテ居リマスガ、何人ノ氣マテレ者アモ、警視廳ニ於テ現ニ被告ニナツテ居ルモノニ向ッテ、此多額ノ金ヲヤル答ハナイ、殊ニ其人相カラ聞イテ見ルト、矢張俗ニ謂フ遊人、モウ一ツ露ハナ言葉ヲ以テ言ヘバ、能ク謂フ密偵、多分是等ノ種類ノ人デア

ルコトハ、十分推測ガ出來ルノデア

ル、即チ是等ノ金ハ總テ警視廳カラ出タト云フコトハ、明カニ斷定ガ出來ル、無論警視廳ニ機密費ト云フモノガ存在スルコトハ分テ居ル、併ナガラ如何ニ機密費カヲ申シマシテ、是ハ犯罪捜査ト云フヤウナ、其人民保護ノ目的ニ適合スル手段ニ對シテハナクシテ、決シテ之ヲ使用スルコトハ出來ナイノデア

ル、罪ナキ人ヲ羅織スル證據ヲ備フルガタメニ、官金ヲ使フト云フノハ、是ハ法律上ノ意味ヲ以テ申セバ、明カニ官金費消デア

ルト云フコトデア

ルシマシテモ、私ハ決シテ間違ッタ論定デナイト確信致シテ居ル、

此警視廳警部宮内宗之助ナル名前テ聽取書ガ出來テ居リマスガ、彼ノ吉澤不二雄ノ陳述ニ依テ見マスレバ、此聽取書ナルモノハ、決シテ自分ガ其通リ申シテ居ルナラシメ、詰リ宮内警部ガ、自分ニ夕食ヲ食シテ居ル、自分ガ御馳走ニテ居ル中ニ書イテシマツテ、ソレニ判ヲ捺セト云フコトデアラ、果シテ然ラバ此聽取書ニ記載サレテ居ル事實ハ決シテ此警部ガ吉澤不二雄ニ偽ハラレテ、之ヲ信シテ書イタノデナクシテ、畜ニ之ヲ欺瞞シタノミナラズ、更ニ進んで自カラ是ノ如キ虚構ノ事實ヲ書イタモノデアラト云フテモ、今日マテ現ハレテ證據ガ信ズベキ價ガアルト致シマスレバ、辯解ノ途ハナカラウト思ヒマス、果シテサウ見マスレバ、是ノ如クシテ、全ク事實ニ異リタル事實ヲ記載シテ、官名ヲ署シ、官印ヲ捺シ、之ヲ檢事局ニ提出致シテ行使致シマスレバ、立派ナル官文書ノ偽造デアラト申シテモ、是モ法律上ノ見解ト致シマシテハ、決シテ間違テ居ラヌト自分ハ自信致シテ居ルノデアル、特ニテゴザンス、彼ノ吉澤不二雄ナル者ハ、證人デナクシテ、被告人デアラ、サウシテ此調書ニ依テ起訴サレタノハ、矢張警察署ノ告發ニテ居リマスルカラ、吉澤不二雄ハ偽證ニモナラズ、誣告ニモナラヌト云フ、都合ノ好イコトニシテ、彼ガ嘘ノ調書ニ安心シテ、署名ノ出來ルヤウニ仕組シテゴザイマス、ケレドモ併ナカラ刑法二百八十七條ノ精神カラ申シテ見マスレバ、即チ警察官吏ガ情ニ從テ又怒ヲ挾シテ被告人ヲ陷害致シタ場合ニハ、賄賂ヲ取テ被告人ヲ陷害シタ場合ト、同一ニ律セラレルノデアラ、曩ニ申シタヤウナ原因ヨリシテ、唯今申サユナ虚構ノ罪ニ依テ、強イテ起訴ヲナサシメヤウト致シタト致シマスレバ、私ノ法律上ノ議論ト致シマシテハ、矢張此刑法二百八十七條ニ從テ人ヲ陷害シタ行爲デアラト云フコトヲ斷定スルニ難クハナイト信ズルノデアラ、勿論政府ハ決シテ、刑事上ノ訴追、若クハ裁判ヲ強制スルノ權能ヲ持テ居ルモノデモナイト云フコトモ云ハナケレバナラズ、司法處分ヲナセシナイカト云フ問題ニ付イテハ、私ガ此處テ政府ニ問フ趣意デハナイ、又私ガ前來述べタ之ヲ刑事上ノ犯罪ナリト論斷致シマスル、論斷ガ或ハ其論斷ヲ引出シタ事實ニ於テ、若クハ其結論ニ於テ多少ノ誤リガアツタト致シマシテモ、司法警察官ガ刑事被告人ヲ取扱フ相當ノ行爲デナカク、即チ不當ノ行爲デアツタト云フコトハ、何人モ之ニ疑ヲ挾ムモノハナカラウト私ハ確信スル、是ノ如キコトガ若シモ頻々ニ行ハル、ヤウナコトガゴザイマシタラ、吾々ノ人民ノ安全ハ何處ニ存在スルカト疑ハネバナラズ結果ニナル、是ノ如キ事柄ガ世ノ中ニ公ニナツタ以上ハ、世人ガ司法警察ノ危機トカ云フコトヲ叫バナイデモ、政府ハ速ニ其處分ヲ致サネバナラズ答デアラ、然ルニ今日マテ政府ガ未ダ何等ノ處分ヲナシタト云フコトヲ聞カヌカラ、是ガ第一ニ私ハ政府ニ對シテ如何ニ之ヲ處分セントスルカ、ト云フコトヲ質問致ス趣意ナラ、次ニ單ニ是ハ司法警察官ノ責任ノミデハナイト思ハネバナラズ、即チ此事件ニ於テ現ハレテ居リマス通ニ、其當時ノ東京地方裁判所ハ、檢事正奥宮正治ニモ亦責任ヲ分タネバナラズ事柄デアラ、彼ガ嚴正ニ刑事訴訟法其他ノ法律ノ規定及精神ニ遵據セズシテ、少ナクモ暗黙ノ間ニデモ、司法警察官吏ノ不行爲ヲ一不當ノ行爲ヲ默認シタ責任ハ恐ラク存在スル、私共ノ信ズルコトデハ、更ニ進シテ是ヲ德通シタ形跡モアルト自分ハ信シテ居ル、先ガ檢事正ノ關係ノ部面カラ申シテ見マシテモ、此吉澤不二雄ナルモノハ、豫審判事ノ拘留狀ヲ受ケテ居ルニモ拘ハラズ、此拘留狀ガ執行サレズシテ、一週間以上モ尙警視廳ニ其儘留メラレタト云フ事實ハ、動キノ取レナイ事實デアラ、檢事正ガ最モ其事件ニ於テ有力ト認ムベキ證據ヲ供シテ居ル、被告人ガ如何ナル場所ニ一週間モ置カレテ居ルカト云フコトヲ知ラナカッタト云ハバ過失デアラ、知ツタト云ハバ矢張不法ノ責任ヲ分タネバナラズ事柄ニナル、又豫審廷ニ於テ吉澤不二雄ガ取調ヲ受ケテ陳述シタ事柄ハ、一々警視廳ノ特務巡查其他ノモノニ

分テ居ラヌト云フ事實ガアル、豫審ノ秘密ハ漏洩スベカラズ、是ハ單ニ法律ノ規定バカリデナイ、然ルニ是ガ一々此警視廳ハ通セラレテ居ラ、吉澤不二雄ハ豫審判事ノ取調ヲ受ケテ歸ツテ來レバ、直チニ又警部及特務巡查ノ取調ヲ受ケナケレバナラヌト云フ事柄ヲ致シテ居ラ、殊ニ此吉澤不二雄ナルモノヲ檢事長ニ引見シテ、彼ノ行ヲ譽メ且安心ヲセヨト云フ言葉ヲ與ヘタ、殊ニ嚴格ヲ貴ブトコロノ檢事正ヨリシテ、卷煙草ヲ與ヘタト云フ如キ形跡カラ見マスレバ、此吉澤不二雄ナルモノヲ警視廳ヲ養テ居ルト云フコトハ、此檢事正ハ確ニ知ラナケレバナラヌト私ハ考ヘル、殊ニ吉澤不二雄ノ聽取書ヲ讀シテ見マスレバ、苟モ常識ノ存在シテ居ルモノハ、是ヲ讀シテ居ラバ不二雄ガ癡癡白痴デナイ以上ハ、又其事ニ連テ居ラ、所謂諸名士ガ癡癡白痴デナイ以上ハ、彼ノ如キ重大ナル事柄ハ、彼ノ如ク不秩序ノ公言スルコトノ存在シヤウ答ハナイノデアラカラ、一見シテ其偽ナルコトハ分ラネバナラズ答デアラ、分ラヌ證據ハ直グ隣リ豫審判事ニアラ、豫審判事ハ吉澤不二雄ヲ第一調ベルトキニ、貴様ガ今日マテ言ツタコトハ嘘デナイカト云フコトヲ言ツテ居ル、是ノ如キ明白ナル事柄デアラニモ拘ハラズ、檢事正ガ更ニ彼ヲ德通シテ、彼ヲ引見シ、彼ヲ優待致シタ事實カラ見マスレバ、矢張檢事正モ此吉澤不二雄ノ虚偽ノ陳述ヲ養ヒ成シテ、即チ養成致シタノデナイカト疑フテモ、餘リニ無理ナ疑デハナイト私ハ信シマスル、勿論私ハ檢事正ナルモノハ、警視廳ニ對シテ直接ノ監督者デナイコトハ承知致シテ居ルケレドモ、被告事件ノ搜索ニ付イテハ、此搜索ガ嚴密ニ、嚴正ニ、敏捷ニ行ハルベキコトハ、矢張檢事正ガ是ヲ監督シ指導スル責任ヲ持テ居ル、然ルニモ拘ハラズ却テ其不當ノ處分ヲ見通シ、更ニ反對ニ是ヲ助長致シタト云フガ如キ形跡ガ存在致シマスル以上ハ、當時ノ檢事正ニシテモ亦其不當ノ責任ヲ分タネバナラヌト信シマス、然ルニ是ニ對シテハ寧ロ榮轉ト見ルコトガ出來マシテモ、何等ノ處分ヲ施サレタコトヲ私ハ聞カナイノデアラ、斯ノ如キハ實ニ立憲政治ノ世ノ中ニ於ケル、司法制度ノタメニ誠ニ痛歎スベキ事柄デアラ、是ノ如キ事柄若シ輕キニ看過致シマシタラバ、其弊ハ何處マテ立往クカ實ハ分カラナイト思フノデアラ、ソレ故ニ私ハ以上ノ不當ナル當該官吏ノ行爲ニ對シテ、當局者ガ速ニ適當ナル處分ヲ施サルコトヲ希望シテ止マヌノデス、東京ニハ濟々タル名士ガ澤山アツテ、是ノ如キ質問ヲ發スルニモ適當ナ人が澤山アルト信シマスルニモ拘ハラズ、私モ是ヲウチヤルコトガ出來ズシテ、此處ニ登ツテ述ベマスノハ、司法警察官吏若クハ檢事局ニ於ケル、被告人取扱ニ對スル不都合ナル行爲ハ、各地方到ル所頻々アルノデ、各地方ノ物議トナツテ居ル事實ハ澤山アルノデアラ、然ルニモ拘ハラズ首府タル東京ニ於テ、是ノ如ク世間ニ明白ニナツタ事實ニ對シテ、政府ガ何等ノ處分モ致サナイト云フコトニ相成リマシタラバ、將來地方ニ於テハドレ程ノ弊害ヲ發生スルカ、私ハ殆ド測リ知ルコトノ出來ヌト信シマスルガ故ニ、貴重ノ時間ヲ費シテ誠ニ諸君ニ對シテハ相濟ミマセヌケレドモ、特ニ是ヲ申述アルコトヲ必要ト信シマシテ、是ノ如キ質問ヲ致シタノデス、幸ニシテ此事件ノ局ニ當ラ、内閣大臣ハ、原内相ニ於キマシテモ、松田法相ニ於キマシテモ、何レモ立憲政友會ノ生ヘヌキノ出身ノ大臣デアツテ、立憲ノ主義ヲ最モ尊重セラル、人デアツテ、是ノ如キ人權問題ニ對シテハ、決シテ等閑ニ附セラレナイト信シマスルガ故ニ、此囑望ヲ是等兩相ニ致シテ、速ニ其處分ヲセラレンコトヲ希望致シマスルノデス

○議長(杉田定一君) 松田司法大臣

(司法大臣松田正久君登壇)

○司法大臣(松田正久君) 唯今望月君ノ御質問ガゴザイマシタガ、其質問書ハ茲ニ手ニ入リマセヌカラ、私ノ記憶スルトコロニ據テ御答辯ヲ致スノデアラ、警視廳管理ニ付イ

ノ御質問ハ、自ラ其當局者ヨリ答辯致スデアリマセウ、借先頃東京地方裁判所ノ公判廷ニ現ハレタル事件ニ付イテ、前ノ東京地方裁判所檢事正ノ、彼ノ九月五日ノ騷擾事件ニ付キナシタル行動ニ付イテ、質問者御自身ガ疑ヲ披マレタノデアル、因テ當局者ニ向テ其處分如何ト云フノ御質問デアラウト、私ハ承リマス、御承知ノ如クニ先頃ヨリ東京地方裁判所ノ公判廷ニ現ハレタル事柄ハ、吾人總テ注目ヲ致シテ居ルトコロニ違ヒナイノデアル、當局者ニ於テモ、此司法上ノ監督ニ至テハ、一日モ怠ラテ居リマセヌ、又此公判廷ニ現ハレタルトコロノ事件ニ付イテハ、種々ノ證人ヲ召喚サレテ居ルノデアルガ、中ニモ檢事ヨリシテハ、此事ヲ明カニスルニ足ルト信スルトコロノ證人ノ召喚ヲ請求致シテ居ルノデアル、公判ガ追々進行スルニ從テハ、自カラ此事ハ分明スルデアラウト思ヒマス、質問者御自身ニ於テモ、唯是ハ疑フト云フ譯デアラウ見レバ、今日ニ於テ其疑ノ中ニ何レトモ處置ヲ致ス譯ニ參ラヌノデアリマス、事實分明ニナリマシタルトコロノ結果ニ至テハ、當局者ハ決シテ是ヲ庇護スルノ念慮ハナイノデアル、必ズヤ公明正大ナル處置ヲ致スデアリマセウカラ、其邊ニ至テハ御安心ヲ下サイマセ、是ヲ以テ答辯ト致シマス

○議長(杉田定一君) 議事日程第一、輸出羽二重精練業法案ノ第一讀會ヲ開キマス 議案ノ朗讀

第一 輸出羽二重精練業法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會

輸出羽二重精練業法案

第一條 輸出羽二重ノ精練ハ主務大臣ノ免許ヲ受ケタル精練業者ニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 主務大臣ハ一定ノ地區内ニ於ケル精練所ノ數ヲ限定スルコトヲ得

第三條 主務大臣ハ精練質、精練ノ方法、工場ノ設備其ノ他精練ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 主務大臣及地方長官ハ官吏ヲシテ精練所ニ臨檢セシメ帳簿、工場倉庫其ノ他物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 精練業者廢業ヲ爲サシムルトキハ六箇月前ニ主務大臣ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 相續ニ因リ精練業ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツヘシ

第七條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ニシテ第八條第二項

〔小字及一ハ〕  
〔貴族院修正〕

ニ該當スル場合ニ於テ其ノ工場、倉庫、器具若ハ機械ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲サシムルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 精練業者正當ノ事由ナクシテ精練ノ委託ヲ拒ミ又ハ精練ヲ爲サス若ハ休業ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ之カ爲精練スルコトヲ得サル輸出羽二重ノ精練ヲ他人ヲシテ爲サシムルコトヲ得

免許ヲ取消サレタル爲精練スルコトヲ得サル輸出羽二重ノ精練ニ付亦前項ニ同シ但シ其ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ他人ヲシテ其ノ精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ノ工場、倉庫及器具機械ヲ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第一項及第二項ニ依リ他人ヲシテ精練ヲ爲サシメタル爲特ニ要スル費用ハ精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ノ負擔トス

第九條 主務大臣ハ精練業者ノ行爲カ法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十條 免許ヲ受ケスシテ輸出羽二重ノ精練ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル器具及機械ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第六條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ精練業ヲ承繼シ又ハ第七條ノ許可ヲ受ケスシテ工場、倉庫、器具若ハ機械ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 精練業者正當ノ事由ナクシテ精練ノ委託ヲ拒ミ又ハ精練ヲ爲サス若ハ休業ヲ爲シタルトキハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者第八條第三項ニ依リ工場、倉庫又ハ器具機械ノ使用ヲ拒ミタルトキハ罰前項ニ同シ

第十三條 精練業者第三條ノ命令ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十五條 相續ニ因リ精練業ヲ承繼シタル者第六條第一項ノ届出ヲ怠リタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

○又ハ廢止シ

○又ハ廢止シ

第十七條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十八條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ精練業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ。紋絨、薄絹其ノ他主務大臣ノ指定シタル輸出絹織物ニ之ヲ準用ス

第二十一條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ於テ精練業者ニ關シ規定シタル事項ハ罰則ニ關スル規定ヲ除キ精練事業ヲ行フ府縣其ノ他ノ公共團體ニ之ヲ準用ス

第二十二條 本法ハ地區ヲ限リテ之ヲ施行スルコトヲ得

第二十三條 本法發布ノ日ニ於テ精練業ヲ營ム者ニシテ本法施行ノ日ニ至ル迄仍其ノ業務ヲ繼續スル者ハ本法施行ノ際同一地區内ニ於テ免許ヲ受ケタル精練業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ補償ヲ請求スルコトヲ得

免許ヲ受ケサル精練業者同一地區内ニ二人以上アルトキハ前項ノ補償金額ハ之ヲ分擔スヘシ

補償金額及其ノ分擔ノ割合ハ當事者ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ主務大臣鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條 本法發布以前ヨリ精練業ヲ營ム者ニシテ仍其ノ業務ヲ繼續セムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受ケルヘシ

第十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 (農商務大臣松岡康毅君登壇)

○農商務大臣(松岡康毅君) 唯今問題ニナリマシタ輸出羽二重精練業法デゴザイマスルガ、是ヲ提出致シマシタル理由ノ大略ヲ申述ベマスルガ、諸君モ御承知ノ通、我輸出品ノ中デ、輸出羽二重ト申シマスルモノハ、隨分重要ナ地位ヲ占メテ居リマスルモノデ、近年ニ至リテ、其金額約三千万程デアリマス、而モ此發達致シマシタコトハ、餘リ長イコトデアリマセウ、隨分急速ノ發達ヲシタデアリマス、甚ダ有望ナル有益ナル品デアリマス、然ルニ此精練ノ上ニ對シテ、是非トモ取締法ヲ設ケテ、現今ノ有様ヲ改良センケレバナラヌ必要ガ起リマシタデアリマス、ソレハ精練者ノ中ニハ、糊類ヲ用井マシテ或ハ絲ノ目方ヲ重クスル、又精練スルトコロノ藥品ニ十分ナルトコロノモノガアルタメニ、地質ヲ毀損スルモノモアリマス、彼此レ致シマスルトコロカラ、折角外國ニ向テ發達ヲ仕

掛ケテ居リマストコロノ羽二重ガ、ツイ昨年ノ春アメリカラ大ニ聲價ヲ墜ス事實ガ現ハレマシタ、第一佛蘭西ノ里昂ナドニ於キマシテハ、大事ノ華主先キデアリマスガ、所ガ精練法ノ十分ナルタメニ、我領事館ナドカラ現物ヲ添ヘテ、其實況ヲ報告致シマシテ、是非トモ此精練ト云フコトニ付テ改テ加ヘヌケレバ、我輸出品ノ聲價ヲ保ツコトハ、産額ヲ今日ノ儘ニ維持スルコトハムカシイ、況ヤ發達ヲヤト云フコトヲ申シテ來リマシタ、段々取調ノ上此法案ヲ提出スルコトニナリマシタ、然ルニ此法案ニ付キマシテハ、諸君モ御承知ノ通、新聞紙上ニモイロノノ非難モ見エマスデアリマス、而シテ貴族院ニ提出致シマシタトコロガ、是ニモ多クノ議論ガアリマシタ、所謂精練ヲ加ヘテ大修正ガ成立チマシタ、併シ其修正タルヤ、文字ノ上カラハ原案ヲ變更シテ居リマスケレドモ、元々精練ヲ改良シヤウト云フ趣意ヲ達スル點ニハ大ナル異動ガナイデアリマス、ソレ故ニ其修正案ニハ全部同意致シマシタ次第デアリマス、本院ニ於キマシテモ、ドウカ貴族院ヨリ送付ニナリマシタ修正案トコロデ、御贊成アラント云フ偏ニ希望致シマス

○武藤金吉君 農商務大臣ニ質問ガアリマス、大體ニ付イテチヨット質問シテ置キタイデアリマスガ、此羽二重ハ半製品デアリマス、然ルニ此條項ノ中ニ加工品ノ紋絨、及薄絹、是等ハ加工品モ、同一ノ法律ノ規定ヲ以テ取締ルト云フ理由ヲ伺ヒタイデアリマス

(政府委員森田茂吉君登壇)

○政府委員(森田茂吉君) 御答致シマスガ、輸出紋絨、及輸出薄絹ハ、羽二重ト同様ニ半製品トシテ、外國市場ニ於テ加工ヲシテ居リマス、詰リ紋絨ノ方ハ重モニ印度ニ往キマス、印度ニ往テ加工シタモノナドハ摘ヘデアリマスガ、是ハ別ノ席デ申上ゲマスガ皆半製品トシテ出シテ居リマス

○福島宜三君 農商務大臣ニ御質問ヲシタイ、此法案ハ貴族院デ修正シタモノヲ見マスルト、殆ド第一條其他ノ修正ニ依リテ、農商務省ノ主義本領ハ没却セラレテ居ルヤウニ思フ、斯様ヲ修正シナラバ、之ニ御同意ニナラバト云フノハ、其名前ガ通レバ目的ヲ達スルト云フデアルカ、又本院ニ於テ政府ノ提出案ノ如ク修正ヲ望ムル、デアルカ、之ヲ同テ置キマス、今一ツハ政府ハ貴族院ニ於テノ説明ニ依レバ、本案ハ全國同業者多ク希望ヲ容レタモノト云ハレテ居ル、其後各地デ反對ノ聲ガ熾キトシテ居ル場合ニ、其聲ニ動かサレテ、修正案ニ同意ヲ表サレタデアリマスガ、此反對ノ聲ハ修正案ナレバ満足セラレノデアリマスガ、此一點ヲ伺ヒタイ

(農商務大臣松岡康毅君登壇)

○農商務大臣(松岡康毅君) 御答ヲ致シマスガ、此修正ニナリマシタトコロハ、今申上ゲル通、文字カラ見マスレバ、大變變々ヤウニナッテ居リマスガ、併シ精練ヲスル方法設備、之ヲ命令ヲ以テ定メタトコロニ依リテ、ソレヲ奉シテヤル者ニ違ラセルデアリマスカラ、元ト違ッテ申シマスルノハ、免許ヲ受ケタル者、サウシテ場所ヲ極メル、人ヲ極メルト云フノガ、原案ノ趣旨デアッタガ、其場所ヲ極メル人ヲ極メルト云フコトヲ罷メテ、一定ノ手續即チ命令ノ定ムルトコロノ條件ヲ具備シタ者ナレバ、數人アッテモ苦シクナイト云フコトニナラナデアリマス

○福島宜三君 近來稱ヘル專賣主義ハ御案テニナッテデアリマスガ

○農商務大臣(松岡康毅君) 專賣主義ト云フモノハナイノデス、一向專賣デモ何デモナイ、完全ノ場所ニ寄セテ、サセヤウト云フノガ主義デアリマシタガ、設備ガ整ッテモノナラバ、數人アッテモ苦シクナイト云フコトニナッテデアリマス、ソレデモ實ガ通ルカラ宜シトシタデアリマス、今一ツハ多クノ希望ガアッテ措ヘタト、然ルニ反對ガアッテドウカト云フコトデア

○福島宜三君 近來稱ヘル專賣主義ハ御案テニナッテデアリマスガ

リヤスガ、是ハ誠ニ悲ムベキコトアルガ、精練スルト云フコト改良スルト云フコトハ多クノ望ミガアルニ違ヒナイ、然レニ場所ヲ極メルトカ、人ヲ極メルトカ云フコトガアルタメニ、反對ニオッタノラス、場所トカ人トカ云フコトコロカラ、反對ノ聲ガ聞エルヤウニナツタト、本大臣ハ見テ居リマス、故ニ是ガ改正ニナラバ、反對ノ聲ハ自カラ消ヘルデアラウト信ジテ居ルデアリマス

○島田三郎君 チョット大臣ニ質問シマスガ、唯今ノ御説明ニ依リマスルト云フト、勅令ナリ省令ナリテ、規則ヲ出ス、其程度ト云フモノハ、此議案ヲ御起章ニナツタトキト同ジク、其雛形ハ變ヘナイト云フ御考デアリマスガ、場所ヲ限ルト云フコトハ反對、ソレト同ジヤウニ之ヲ精練スルト云フコトハ、餘リ干涉ニ過ギテイケナイカラ、ソレモ精神ヲ緩メタト云フ御考デアリマスガ、精神ハ依然トシテ農商務省ノ元ノ理想ノ如キ程度ヲ以テ命令ヲ頒布シニナル譯デアリマスガ

(農商務大臣松岡康毅君登壇)

○農商務大臣(松岡康毅君) 島田君ノ御尋ノヤウナ意味ハ、貴族院ニ於キマシテモ、質問ガゴザイマシテ、政府ニ於キマシテハ、最初立テマシタヨリカモ、成ルタケ何程カ緩クシヤウト云フ考ニナリマシタノデアリマス

○島田三郎君 ソレデハ尙伺フデ置キタイ、農商務省ノ美德ハ本員ハ憚ラズ贊スル、貴族院ノ修正ニ同意セラレタト云フコトハ、誠ニ結構デ、ソレト同ジ譯テ、今ノ程度ヲ緩メルト云フコトヲ明言サレタノハ、本員ノ喜ブトコデアリマス、併ナガラ此案ヲ起章セラレタ精神ガ、矢張民心ニ餘程驚ヲ與ヘタ、ソレデ本員ノ記憶致シテ居ルトコロニ依リマスルト、是ノ如キ種類ノモノハ、多ク地方ニ成立テ居ルトコロノ組合員ナドニ諮問ニナツテ居ル、先以テ人間ヲ入レテ御參考ニナサルト云フコトガアルト、今回ノ如キ反對ガ無クシテ止ンダラウ、農商務省ハ煩勞ヲ省ケラウト思フ、其故ニ農商務大臣ハ感心シナイト云フ御考デ、是カラ命令ヲ發スルト云フコトヲ申サレマイ、マダ民心ノ驚ハ止ンテ居リマセヌカラシテ、命令ノ程度ト法律ニ保險ヲ付ケテ往クコトガ出來ルケケノ途ヲ御開キニナルコトガ、出來マスカ、出來マセヌカラ質問致シマス

(農商務大臣松岡康毅君登壇)

○農商務大臣(松岡康毅君) 反對ト申スノモ、島田君ナドハ能ク御承知デアリマセウガ、此初ニ重ノ精練スル場所ト申スモノハ、重モ二羽ニ重産地ニ在ルノラスガ、横濱ニモ、數箇所アリマスガ、此反對ノ出來マシタトコロノモノハ、見様ニモ依リ、開様ニモ依リマセウガ、政府ガ取締ヲスルト云フモノハ糊付ト申スヤウナ惡ルイ事ヲ爲シテ、量目ヲ殖シテ、網アナイモノヲ網トシテ賣テ、不正ノ利ヲ得テ居ルモノガアルノデアリマス、其他精練ノ惡シキヨリシテ、外國市場テ聲價ヲ墜ス原因ニナツテ居リマス、ソコデソレヲ一ツ押ヘテシマハウト云フノガ、此案ノ趣意デアリマス、サウスルト今ノヤウナ不正ノ利ヲ得テ居ルヤウナ人ガ、一番先ニ反對ノ聲ヲ出ス、ソレハ誠ニ致方ノナイコトデアリマス、中ニハ誤解シタノモアリマス、又嚴重ニ過ギルト云フノデ、異議ヲ言フモノモアリマセウガ、先ツ今日貴族院テ修正致シマシタ所存ハ適當デアラウト思ウテ、政府モ同意致シマシタノデアリマスカラ、是カラ以上ツンナニ修正シヤウト云フ廉ガ、餘リ無イト思ヒマス、イツレ委員會ニデモ掛リマシタラ、此邊ノコトハ詳シク御話ヲシナケレバ、大分練リ難イ、ムアカシイ問題デアリマス(笑聲起ル)

○元田肇君 第二ノ日程ニ移ラレ、十八名ノ委員ヲ議長ニ於テ指名セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(杉田定一君) 第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○議長(杉田定一君) 元田君發議ノ通り十八名ノ委員、議長指名ニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、日程第二、韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案第一讀會ニ移リマス、議案朗讀

第三 韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

〔小字及「ハ」貴族院修正〕

- 第一條 理事廳ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル訴訟事件ノ始審及非訟事件ノ事務ヲ行フ
- 第二條 統監ハ一ノ理事廳ノ管轄ニ屬スル裁判事務ノ一部ヲ他ノ理事廳ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
- 第三條 理事廳ハ理事官又ハ副理事官單獨ニ審問裁判ス
- 第四條 統監府法務院ハ終審トシテ理事廳ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理ス
- 第五條 統監府法務院ハ評定官三人ヲ以テ組織シタル部ニ於テ審問裁判ス  
評定官中上席ノ者ヲ以テ裁判長トス
- 第六條 五年以上判事、檢事、理事官又ハ副理事官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ニ非サレハ評定官又ハ檢察官タルコトヲ得
- 第七條 理事官ハ理事廳職員ヲシテ其ノ廳ノ檢察事務ニ付檢事ノ事ヲ行ハシム
- 第八條 統監府法務院ノ檢察事務ハ檢察官之ヲ行フ但シ檢察官事故アルトキハ法務院長ハ評定官中ノ一人ヲシテ之ヲ代理セシム
- 第九條 裁判所構成法中法律上ノ共助ニ關スル規定ハ理事廳及統監府法務院ト裁判所トノ間、裁判所及臺灣總督府法院共助法ノ規定ハ理事廳及統監府法務院ト臺灣總督府法院トノ間ニ於ケル法律上ノ共助ニ之ヲ準用ス
- 第十條 本法ニ規定アルモノノ外裁判事務ニ關シ韓國ニ於テ適用スル法律ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ總テ從前ノ例ニ依リ  
〔期前省略〕〔期讀ヲ願ヒマス〕ト呼フ者アリ  
○議長(杉田定一君) ソレデハ省略致シマス

○司法大臣松田正久君 韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ一言致シマス、從來韓國ニ於ケル居留日本人ノ裁判事務ハ、多ク領事廳テ取扱テ居タノデアリマス、尤モ其中テ種類ニ依リテハ、長崎地方裁判所ノ管轄ニ屬シテ居タモノガアリ

シタガ、其領事廳ノ裁判ニ對スルコトコノ控訴、若クハ上告ノ如キニ至ラズテハ、長崎ノ控訴院若クハ大審院ニ於テ之ヲ受理シテ居ルアリマス、然ルトコト曩ニ韓國ニ於テ理事廳及統監府ヲ設ケラレタリタル、而シテ統監ハ政務ヲ統一スルノ職務ヲ持ツコトニナリマシタ、隨テ韓國ニ於ケル裁判事務ヲ統監府ニ直屬セシムルコト云フ趣意ヨリシテ、本案ヲ提出スルコトニ至リマシタ、此案ノ大要ヲ申セバ、從來領事館ヲ取扱フテ居ル裁判事務ハ理事廳ヲ取扱ヒ、而シテ長崎ノ地方裁判所若クハ控訴院及大審院ニ於テ受理シタルモノハ、總テ統監府ノ法務院ニ於テ之ヲ取扱フコトニシタコト云フノ要旨ニ止マリマス、是ハ貴族院ニ於テ可決ヲ得マシテ、本院へ送付サレタ譯デアリマスガ、速ニ御協贊アラシコトヲ希望致シマス、尙詳細ナルコトハ法制局長官ヨリ御質問ニ應ジテ説明ヲ致スデアリマセウカラ、此段御了承ヲ願ヒマス

(森田卓爾君登壇)

○森田卓爾君 是ハ私ハ司法大臣バカリデナク、提案ノ根柢ニ付イテ、三箇條程政府全體ニ御尋テ致シタイノデ、遠クカラ聽エマセヌカラ登壇致シマシタ、此案ハ表題ハ韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案ト題シテアリマスガ、其内容ハ韓國ニ於ケル裁判所構成法ト云フテ差支ナイ案デアリマス、中ヲ見マストハ是マデノ韓國ニ於ケル裁判所構成法ト云フモノハ根柢カラ壞シテシマツテ、稍 内地ニ行ハル、ヤウナ裁判所構成法ガ出來テ居ル、即チ二審制度ニシテ、一審ハ元ノ領事、今ノ理事廳取扱フ、二審ハ唯今新ニ出來マスルト云フ法務院取扱フ、斯ウ云フコトニシタコト云フノガ、本案ノ趣意デア、唯今司法大臣カラノ説明モ、其通内容其通りニナツテ居リマス、モウ一ツハ今マデノ領事館ト云フモノハ、極ク狹イ範圍ノ職權ヲ持ツテ居ル、即チ豫審ヲ經ザル重罪ノ公判、是ダケデ、ソレカラ重罪ハ一切扱フコトハ出來ナイト云フコト、即チ豫審ヲ經テ重罪ト輕罪ハ、長崎控訴院ガ公判ヲ開クト云フコトニナツテ居ル、ソレヲ今度ハ重罪デモ輕罪デモ豫審ヲ經ルモノデモ、經ザルモノデモ、盡ク唯今ノ理事官ト云フモノニ、裁判權ヲ與ヘルト云フコトニナツテ居ル、第一ノ質問ハ、サウ云フコトニスルナラバ、私ハ是ハ憲法違反デハナイカト思フ、具體的ニ質問ノ明文ヲ申シマス、第一審ノ判事資格ヲ法律ヲ以テ一定セザルハ、如何ナル理由ナルヤ、是ガ第一法案ニ依リマス、第六條ニ於テ法務院ノ評定官、即チ憲法ニゴザイマス、裁判官ダケハ本案即チ法律ヲ以テ、五年以上判事、檢察、理事官、又ハ副理事官ノ職ニ在ル者、又ハ在リタル者ニアラザレバ、評定官又ハ檢察官タルコトヲ得ズトアル、是ハ至當ノ規定デアリマス、裁判所ノ構成ト云フモノハ他ノ官制ト違フテ、行政官ガ手心テ資格ヲ定ムルコトハ出來ナイコトニ、憲法ニ規定シテアル、然ルニ一審ノ裁判官、即チ理事官、若クハ副理事官ト云フモノハ、ドウ云フ資格ノモノカラ得ルカト云フコトハ、本案ニ於テ規定ガ致シテナイ、ソレハドウ云フ趣意デアルカト云フコトハ、貴族院ヲ聽イテ見マスト、政府ハ斯ウ答ヘタノデア、ソレハ曩ニ出シマシタ官制ニ依ツテ、其資格ガ定メテアリマスカラ、此案ニハ除ケマシタ、其官制ノ第一條ニ理事官副理事官ト云フモノハ、左ノ資格ヲ得タル者カラ採用スル第一外交官、領事官、貿易事務官ノ職ニアル者、第二外交官又ハ領事官ノ資格ヲ有スル者、第三ニ司法官試補ヲ經テ、滿一年以上、判事又ハ檢察ノ職ニ在リ、又ハ在リタル者、此三ツノ者カラ採用スルコト、勅令ガ既ニ出サレテゴザイマス、斯ウ云フテ居ル、是ガ甚ダ私ノ疑點ノ氷解スルコトノ出來ヌ點デア、評定官ト名ヲ命ケマシテモ、臺灣ノ法院判官ト名ヲ命ケマシテモ、民事刑事ノ裁判ヲ爲ス者、憲法ノ二十四條ノ所謂裁判官ニ違ヒナイ、憲法二十四條ニ依リマス、日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クル權ヲ奪ハル、コトナシトアル、行政官ノ官制デ一勅令ヲ拵ヘタ者ノ裁判ヲ受クル

云フ義務ハナイノデア、徹頭徹尾法律ニ資格ヲ定メテ、其資格ヲ持ツテ居ル裁判官ノ裁判ニ不服從スル義務ヲ持ツテ居ル、其他ノ行政官ガ拵ヘタ勝手次第ノ裁判ニ服從スル義務ハ日本臣民ハナイ、ソレガナト云フコトヲ認メラレバ、韓國ニ於ケル一名裁判所構成法ト稱スルコトコノ本案第六條ニ法務院ノ評定官ト云フモノハ、裁判官若クハ檢察官ト限ラレテ、六條ニハ明カニ法律ヲ以テ資格ガ規定セラレテ居ル、然ルニ裁判官ニ限ラズ法律ニ於テ、其資格ヲ限定セズシテ、勅令ニ依ツテ之ヲ定ムルコト云フコトハ、ドウ云フ全體御趣意デア、第一本案ニ於テ矛盾スルモノナラズ憲法ニ於テ行政官ノ裁判ヲ受クル義務ノ國民ヲ、行政官ノ裁判官ノ下ニ置クト云フコトニナリハセヌカ、モウ一ツ詳シク申シマス、此行政官ノ官制ト云フモノハドウヤウニモナル、勅令デ一官制ニ於テ司法官試補ヲ經テ、滿一年以上判事又ハ檢察ノ職ニ在リ、又ハ在リタル者、斯ウシテアルカラ宜イデアハナイカト云フガ、之ヲ止メヤウト思ヘバ、勅令直グ止メルコトガ出來ル、之ヲ止メテ今マデノ行政官ノシテ居ルモノヲ理事官ニサセルコトモ出來ル、法律テ極メテ置クトキニハドウシテモ出來ナイコトニナル、此一審ノ裁判官ニ限ラズ、勅令自由自在ニ進退スルヤウナ、司法權ノ獨立ヲ持ツテ居ル者ニ、此裁判權ヲ與ヘルト云フコトハ、如何ナル趣意デア、第二ニハ一審裁判官ノ資格ガ極メテアル中デ、大學教授、若クハ辯護士ト云フモノヲ、資格カラ除イタノハドウ云フ譯、(修正サレテ居ル)ト呼ブ者アリ、修正ガ原案デア、修正ガ惡ルク出來テ居ルカラ申スノデ、此原案デハ「五年以上判事、檢察、理事官又ハ副理事官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者」ニ非サレハ、評定官又ハ檢察官タルコトヲ得ズトアル、是ハ當リ前デゴザイマスガ、日本ノ内地ノ原則トシテアル構成法ニハ、法科大學ノ教授ヲ何年シテ者ハ判事ニナル、又ハ辯護士タル者ハ云々トスアル、ソレデ第二ニ付イテ問ヒタイノハ、ドウ云フ譯テ帝國大學ノ法科教授、辯護士ト云フモノヲ入レナカッタカ、貴族院ノ意見ガ、タラ、トウ、政府ハ要領ヲ得ル答ヲスルコトガ出來ナカッタ、ソレ故ニ私ハ此處テ聽イテ置ク、ソレカラ第三ニ私ノ聽キタイト思フノハ、第六條ノ貴族院修正ニ對シテ、政府ガ同意致シタ趣意ガ分ラヌ、貴族院デ斯ウ修正シタ、唯今ノ大學ノ教授辯護士ヲ入レタト云フコトハ穩當デゴザイマスガ、其下テ原案ヲ貴族院打壞シタ、政府ガ贊成シタノガ分ラヌ、原案ニアル「職ニ在ル者又ハ在リタル者」ト斯ウ立派ニ書イテアル、原案ノ方ガ宜イノデア、即チ此原案ノ趣意ト云フモノハ、今マデ法科大學ノ教授、判事ニ仕官ヲシテ居ル者、若クハ現ニ職ニ五年以上勤メテ居ル者、兩方ノ中カラ採ル、斯ウ云フコトガ立派ニ詳シク書イテアルノニ貴族院ハソレヲ改正シテ「在リタル者」ヲ除ケテシマツタ、既往ニ於テソレダケ勤メタ者ヲ除ケテ、今日休職退職シタモノヲ退ケテ唯現在「在リタル者」ダケヲ採ルコト云フコトニ修正シタコトガ、政府ハ差支ナイト云ウテ同意セラレタノハ、立派ニ六條ニ嚴格ニ書イテアルノヲ除ケラレテ、恬トシテ顧ミナイ、是デモ政府ノ方ハ既往ニ於テ其職ニアリタルモノモ取リ得ルト云フ趣意デア、此三點ヲ伺ヒタイ

(政府委員法學博士岡野敬次郎君登壇)

○政府委員(法學博士岡野敬次郎君) 唯今ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ御質問ハ理事官ノ資格ヲ法律ニ定メナイノハ、憲法ニ違反スルデアハナイカト云フ御趣意ト考ヘルデアリマス、是ニ付キマシテハ、從來朝鮮ニアリマシタコトコノ領事裁判ノ性質如何、領事官ガ如何ナル資格ヲ以テ民刑ノ事件ヲ裁判シタノデア、カト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌデアリマス、御承知ノ通り韓協約ニ依リマシテ、領事官ノ裁判權ノミナラズ、領事官ノナシテ居ルコトコノ職務ト云フモノハ、新ニ設置セラ、トコロノ領事官ノ職務ニ移ッタデアリマス、故ニ當リ領事官ガ其資格ヲ法律ニ定メテナイニモ拘ハラズ、矢張裁判

ヲナシ來タモノデアアルノデアリマスカラ、此日韓協約ノ定ムルトコロニ依テ、領事官ノナシタ  
トコロノ職權ガ、理事官ニ移タナラバ、是ハ矢張其時勢ニ於テハ、理事官ハ矢張領事官  
ト同一ノ職權ヲ有スルモノト云ハナケレバ、ナラヌデアリマス、此領事官ト云フモノハ御  
承知ノ通、當ニ朝鮮ニアルバカリデアリマセヌ其他ノ外國ニモアルデアアツテ、治外法  
權ノ存シテ居ル所ニアラズ、此領事官ガ矢張裁判ヲナシテ居ルノデアアルデアリマス、而  
シテ此領事官ノ資格ガ法律ニ定メテナイト云フ點ニ於テ、違憲デアアルト云フノ議論ハ、  
私ハ嘗テ聞カヌデアリマス、即チ第一ノ御質問ニ對シテハ、領事官ノ職務ガ日韓協約  
ノ定ムルトコロニ依テ、理事官ニ移タナラバ、其領事官タルノ資格ハ法律ニ  
限定スルコトヲ要セナイ、限定セザルモ敢テ憲法ニ反スルコトハナイト信ズルデアリマス、  
ソレカラ第二ノ……(森田卓爾君)一般ニ治外法權ノアル領事官トハ、其關係ガ違  
居ルト云フ、矢張理窟ニ於テハ同様にアリマス、多少權限ニ廣狹ハアルニ致シテモ、裁  
判ヲナスト云フ點ニ於テ、理事官ガ他ノ外國ニアルトコロノ領事官ト、其性質ヲ異ニス  
ルモノハナイト信ズルデアリマス、第二ノ點ニ付イテ、政府カラ提出シテ原案ニハ、大  
學ノ教授、ソレカラ辯護士ト云フモノヲ加ヘテナカッタデアアル、貴族院ノ修正ニ同意ヲシ  
タノハ甚ダ分ラヌ、何ガ故ニ原案ニ於テ之ヲ加ヘナカッタゾフノガ、御質問ノ點ノヤウデ  
アリマスガ、質問者自身モ貴族院ノ修正ニハ御贊成ノ意ヲ表セラレテ居ルヤウニ聽エマ  
スルシ、又政府ニ於テモ、貴族院ノ修正ヲ可ナリト認メテ、是ニ同意ヲシタデアリマスカ  
ラ、此貴族院ノ修正ニナッタモノヲ議案トシテ、御討論ヲ願ヒシタナラバ、敢テ其以前ニ  
遡リテ説明ヲ致ス程ノ必要モナカラウト信ズルデアリマス、第三ノ職ニ在ル者又ハアリ  
タル者ト云フノヲ、改メテ「タル者」トシタノハ所謂「タリシ者」ヲ含マナイ、斯ウ云フ意味  
ニ解釋セラレハセヌカ、ソレナラバ、甚ダ穩當デアリマス、斯ウ云フ御趣意ト伺フデアリ  
マス、是ハ貴族院ニ於キマシテモ、度々説明ヲ致シマシタ通、此本案ノ第六條ハ其文  
字ニ於テモ、裁判所構成法ノ定ムルトコロニ倣フデアリマシテ、御承知ノ如ク裁判所  
構成法ノ第六十五條ニ於テ「三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者」斯ウ  
書イテ居テ「タリシ者」ト云フコトハ言ウテハ居リマセヌゾ、又第六十九條、第七十  
條ニ於テモ「五年以上判事タル者」「十年以上判事タル者」トアツテ「タリシ者」ト云フコ  
トハ明カニ言ウテハ居リマセヌゾ、併ナガラ此裁判所構成法ノ「タル者」ト云フノハ、即  
チ「タリシ者」ヲモ合セテ含ムデアアルト云フコトニ、從來解釋シ來テ居ルデアリマシ  
テ、即チ此點ニ於テハ貴族院ノ修正ニナッタコトニナリマシテモ、一向趣意ニ於テハ變テ  
又精神デアアルデアリマス

○森肇君 質問ガアリマス、此本案、即チ韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案ナル  
モノハ、我日本ノ國民ガ韓國ニ對シテ居留シテ居ル場合ニ、其居留民ヲ支配スルコ  
ロノ此法律案デゴザイマス、而シテ見レバ此法律ニ於テ、居留民ガ如何ナル利害ニ關係  
ヲ持テ居ルカト云フコトヲ想像シテ見ルニ、實ニ重大ナル關係ヲ持テ居ルデアリマ  
ス、ソレニ付イテ先キニ御質問モ出マシタガ、私ハ先ツ第一ニ斯ウ云フコトヲ御尋シマ  
シ、此第十條ヲ見マストスウ云フコトガ認メテアリマス、韓國ニ於テ適用スル法律ニ付  
テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得「ト云フコトガアリマス、是ハ讀シテ字ノ如  
ク、一ツノ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルト云フコトヲ許スト云フ、法律ニナツテ居ルデア  
ル、即チ明文デアリマス、又政府委員ガ貴族院ニ於テ説明ヲ與ヘラレタトコロノ筆記録ヲ讀  
シテ見マシテモ、サウ云フ趣意ニ聽エマス、是ハ即チ憲法ノ第九條ニ於テ明カニ「命令ヲ  
以テ法律ヲ變更スルヲ得ス」ト云フコトガアル、此憲法ノ明文ニ違反スルトコロノ規定デ  
ハナイカト、本員ハ考ヘルデアリマス、是ヲ先ツ第一ニ御尋ヲ申シタイ、ソレカラ第二ニ御

尋ヲシタイノハ、即チ先キノ質問者ガ言ハレタトコロノ、第一項ニ對スル質問ト同一ニ關  
スル問題デゴザイマスガ、私ノ尋ニ對シテ欲スルトコロハ、モウ一步進シテ御尋デゴザイマス、  
唯今政府委員ガ答ヘラレタトコロノ答辯ハ、貴族院ノ委員會、若クハ本會議ニ於テ  
答辯セラレタトコロト同一デアリマス、本員ハ既ニソレヲ一讀致シテ居リマスカラ、其意  
味ハ能ク承知致シテ居リマスガ、尙答辯ツレニ自體ガ既ニ私ハ此理事官、若クハ副理事官  
ナルモノハ、法律ニ於テ定メラレタトコロノ裁判官ト云フモノニハ當ラナイデアアルト云  
フ意見ヲ有シテ居ルデアリマス、固ヨリ此明治三十二年ノ第七十號ノ領事ニ關スル  
コトノ法律ハアリマシテ、領事官ニ委任スルニ、此裁判ノ權ヲ與ヘテ居ルデアリマス、  
種々ナル條件ヲ附ケテ、是ハ法律ニ於テ領事官ニ裁判權ヲ委任シテゴザイマス、此委  
任ガ果シテ適法デアルカ、憲法ノ第五十八條、又ハ憲法ノ第二十四條等ニ抵觸スルカ  
セナイカト云フコトニ付イテハ、憲法學者間ニ於テモ多クノ議論アルトコロデゴザイマ  
ス、併シ私ハ此議論ハ茲ニ言フ必要ハナイ、何ゼトナラバ、既ニ領事ニ關スルコトノ法  
律ノコトニ付イテ論ズル必要ハナイデアリマスカラ、然ルニ此領事官ニ對スルコトノ  
此法律ガ、直チニ理事官ニ應用ガ出來ルト云フコトハ、何故デアアルカト云ヘバ、此日韓  
協約ノ第三條ニ於テ斯ウ云フコトガアル、即チ「理事官ハ統監ノ指揮ノ下ニ從來在韓  
國日本領事ニ關シタル一切ノ職權ヲ執行シ、竝本協約ノ條款ヲ完全ニ實行スル爲  
必要トスベキ一切ノ事務ヲ掌理ス」ト云フコトガアリマス、此在韓國日本領事ニ關  
シタル、一切ノ職權ヲ執行スルコト云フコトハ、日韓協約ノ第三條ニアルガ故ニ此領事官  
ニ關スルコトノ法律ガ、直チニ理事官ニ對シテモ應用ガ出來ルト云フ御意見ノ如ク聽  
取リマシタガ、果シテサウデゴザイマスナラバ、是ハ又大ナル間違デアラウト思ヒマス、ナ  
ゼトナラバ、此日韓協約ナルモノハ、天皇ノ大權ニ屬シテ即チ其大權ニ屬スル範圍内ニ於  
テ、締結セラレタル此條約デゴザイマス、此條約ニ於テ規定セラレタルコトガ、直チニ法律  
トシテ民間ニ效力ヲ持ツト云フコトハナイ、之ヲ言換ヘテ見ルナラバ、此當衆議院ニ於キ  
マシテモ、斯ウ云フ既ニ全會一致ヲ以テ結了シテ居ルトコロノ決議案ガアリマス、即チ明  
治二十七年ノ六月一日ニ當衆議院ガ決議ヲシテ居ルトコロノ決議案ヲ見マスト「條  
約ノ締結ハ天皇ノ大權ニ屬スト雖モ之カ爲メ新ニ法律ヲ制定ヲ要シ又ハ法律ノ變更ヲ  
生スベキ事項」云々トアリマシテ「當然議會ノ協贊ヲ經ヘキモノトス」茲ニ之ヲ決議ス  
ト云フトコロノ決議案ガアリマス、此決議文ニ依テ見マシテモ、條約締結ハ天皇ノ大權  
ニ屬シマスケレドモ、其條約ヲ締結スルニ當リ、若クハ締結シタトキニ於テ、法律ヲ制定ヲ  
新ニ要スルトカ若クハ法律ノ變更ヲ要スベキ事項ガ發生シタ時ニハ、當議會ノ協贊ヲ  
經ベキモノアルト云フコトガ、決議ニナツテ居リマス、其當時ノ政府ハ、果シテ此決議文  
ヲ容レラレタルヤ否ヤハ本員ノ知ルトコロデハナイガ、是ノ如キ譯デアリマスナラバ、縱シ日  
韓協約ノ第三條ニ於テ一切ノ職權ヲ執行スルコト  
ヲ領事官ニ許シテヤタトコロガ、之ガタメニ領事官ニ關スルコトノ法律ガ、直チニ理  
事官ニ應用ガ出來ルト云フコトハ、決シテナイデアリマス、サウシテ見レバ此理事官  
若クハ副理事官ヲシテ、裁判ヲナサシムルト云フコトハ、所謂憲法ノ第五十八條ニ「裁  
判官ハ其法律ニ於テ定メタル資格ヲ備フル者ヲ以テ之ヲ任ス」トアル、即チ裁判官ナル  
モノハ、必ズ法律ニ於テ定メタルトコロノ資格アル者ヨリ、之ヲ任命シナケレバナラヌ、  
又第二十四條ニ於テ「法律ノ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ」  
トアル、此第二十四條、五十八條ヲ對照シテ見マストナラバ、必ズ第一審ノ裁判官ト  
シテモ、理事官ガ單獨ニ裁判ヲ致シマスコトニ付イテモ、必ズ法定ノ裁判官ト云フモノ  
ヲ極メナケレバナラヌデアリマス、私ハソレ故ニ領事官ガ果シテ法定ノ裁判官ナリヤ否ヤ

ト云フコトニ付イテ、議論ヲスルノデアリマセヌガ、理事官ニ對シテ、未ダ法律ヲ以テ定メ

タルトコロノ裁判官トシテト云フ法律ト云フモノハ、存在シテ居ラヌデアリマス、サウスレバ

矢張曩ノ質問者ノ如ク、理事官又ハ副理事官ト云フモノハ、法定ノ裁判官デアナイト斷

言シナケレバナラス、又隨テ憲法ノ精神ニ違反シタモノデアルト云フコトニナリマスカラ、此

點ニ付イテモ、詳細ナル御答辯ヲ聽キタイデアリマス、ソレカラ尙一ツ附加ヘテ申シテ置

キマスルガ、元來本案提出ノ理由ハ、曩ニ司法大臣ヨリ御説明ニナリマシタ通、統監

府ヲシテ其直屬事項ノ政務ヲ統一スルガためニ、裁判上ニ關スル司法ノ事務ヲモ、統監

府ヲシテ、即チ統一ヲ圖リタイ、是ガ即チ此本案ヲ提出セラレタルトコロノ、主要ノ理由ト

ナリテ居ルヤウデアリマス、本員ノ考ヘマスルニハ、此法案全體ト云フモノガ、既ニ憲法ノ

精神ニ違背シテ居ルノミナラス、法律ノ保障ヲ蹂躪シテ居リマス、人民ノ權利ノ尊重ヲ

沮礙シテ居ルトコロノデアラウト思ヒマス、蓋シ斯ク申シマシテモ、本員ハ多少此韓

國ニ於ケル領事裁判ニ付イテハ、經驗モアリ、又實地ニ付イテ調査ヲ遂ゲタモノデアリ

マシテ、此韓國ノ裁判制度ヲ如何ニ改良センカト云フ、ソレ等ノ意見ニ付イテハ曩ニ伊

藤大使ガ韓國ニ往カレテ、日韓條約ヲ締結セラレタ場合ニ、其當局者ニ向ッテ、本員

ハ自己ノ意見ヲ披陳シテ置キマシタ、其幾部分ハ本員ノ意見ヲ採用セラレテ居ル、故ニ

之ヲ言換ヘレバ、此裁判制度ヲ改良シテ、即チ韓國人ヲシテ日本ノ司法裁判ノ信

用ヲ得、以テ之ヲ模範的ノ裁判トシテ、サウシテ此信用ヲ彼ノ韓國ニ繋ガント欲スル

云フ趣意ニ付イテハ、大體ノ趣意ニハ贊成ヲ致シマスルケレドモ、此法案ノ立方ニ於テ

ハ、實ニ我日本居留民ノ權利尊重ヲ沮礙シテ居ルコトノ甚キモノデアリマス、其譯ヲ

申シテ見マスレバ、ドウデアリマセウ、今日領事裁判ヲ受ケテ居リマシタトコロノ有様ハ、曩

ノ質問者モ述ベマシタ如ク、現ニ領事裁判ニ對シテ不服ガアルナラバ、長崎控訴院ニ

控訴シ、尙其判決ニ不服ガアレバ大審院ニ上告シタデアリマス、然ルニ之ヲ今回ハ領

事官ノ判決ニ對シテ、不服ガアレバ京城ニ於ケル最モ劣等ナル僅カニ三名ニ限ラレタル

コロノ法院ナル裁判所ニ於テ、即チ二審制度ヲ於テ、之ヲ終審トシテシマフト云フ

デアル、如何ナル重罪モ、死刑ニ處セラル、犯罪モ、是モ即チ第一審ノ單獨裁判——曩

ニ申シマシタル不完全ナル理事官ノ判決ノ第一審ノ判決ヲ受ケテ、第二審ニ至ラバ、

内地ノ控訴院判事同一ノ資格ヲ以テ組織セラレタル、彼ノ二名ノ評定官ニ於テ、是

等ノ決定ヲ與ヘテ、終審トシヤウト云フ法案デアリマス、是ガ忍バ、モノデアリマセ

ウカ、是ガ若シ韓國ノ韓人、若クハ其他ノ國民ト共ニ是ノ如キ判決ヲ受ケシメタルト云

場合デアリマスレバ、又格別デアリマスガ、此法律ハ日本ノ人民ガ彼ノ國ニ居留シテ

居ル居留民ヲ取締ル法律案デアリマス、ソレ故ニ内地ニ置キマスルト、云フト斯ノ如

ク完全ナル二審制度、大審院マデ上告シ得ルトコロノ裁判制度ヲ適用セラル、モノガ、

吾々ガ一朝彼ノ韓國ニ參リマスルト同時ニ、此完全ナル法律ノ保護ヲ受クルコトガ出來

答辯ヲ願ヒタイデアリマス

○政府委員(法學博士岡野敬次郎君) 細カイコトニ至ラバ、委員會ガ御答ヲ致シ

タ方ガ便利デアラウト存ジマスルガ、唯今ノ御質問ニ付イテ、極ク大體ノコトヲ御答致シ

タイト思フデアリマス、第一ノ御質問ハ本案ノ第十條ニ於テハ、廣ク命令ヲ以テ法律ヲ

變更スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

得スルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ居ル、是ハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ

法ニ規定アルモノ、外裁判事務ニ關シ「ト云フ文字ガアルカラ、是ハ單ニ裁判ノ訴訟手續アル、即チ法律ヲ執行スルニ付イテ、執行方法アルガ如ク述ベラレマシタガ、從シ立法ノ精神ガドウデアツテモ、此明文ニ據ツタラバ、民法モ、刑法モ、商法モ、訴訟法モ、民刑ノ訴訟法モ、其他ノ諸法律ヲ變更シ得ルコトニ、是ハ讀メルノデアリマス、サウ即チ讀ミ得ラレマスガ、是ガ即チ今日ノ統監——幸ヒニ伊藤統監ノ如キ其人ヲ得タラバ宜シウゴザイマスガ、其人ヲ得ナケレバ、此明文ノ如ク、民法モ、刑法モ變更シ得ラレコトニ、是ハ廣義ニ解釋セラレマスルガ如何、即チ其程度ハ斯ウ云フ裁判ノ訴訟手續ニ限ルガ如クニ、此文章ハ讀ミ得ナイ、サウ云フ程度ハ、即チ何ニ依テテ分解ガ出來マスカト云フコトヲ一應權カメル、ソレカラモウツハ、日本臣民ガ、内地ニ於テハ憲法上ノ保持ヲ受ケル、ソレガ一度韓國ノ土地ヲ踏メバ、忽チ憲法上ノ保持ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フ理由ハ何處ニアルカ、日本臣民ハ自己ノ利權ヲ失ハザル限リハ、必ズ韓國ニ往ツテモ、憲法ヲ保持ヲ受ケルノデアル、是ハ如何ナル憲法學者モ疑ヒテ挾マヌトコロデアル、ソレガ何故ニ韓國ニ渡韓スルト同時ニ、日本國民ガ憲法ヲ保持ヲ受ケルコトガ出來ヌカ、此點ヲ承リタイ

〔政府委員法學博士岡野敬次郎君登壇〕  
○政府委員(法學博士岡野敬次郎君) 唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シマスガ、第一ノ「裁判事務ニ關シ」ト云フコトヲ如何ニ解釋スルカト云フコトハ、即チ御意見ニ屬スルノデアリマシテ、政府提出ノ法案ノ趣意ハ、實體法ニ付イテハ、勅令ヲ以テ別段ニ規定ヲ設ケルコトヲ得ト云フノデアリマス、ソレカラ第二ノ點ハ、是ハ隨分憲法上ノ議論ハアリマセウカ、日本臣民ガ世界ノ何處ニ往ツテモ、日本ノ裁判官ノ裁判ヲ受ケルコトハ出來ナイノデアリマス、英吉利ニ參レバ英吉利ノ裁判所ノ裁判ニ服從シナケレバナラヌノデアリマス、領事——治外法權ノアル所ニ於テ其問題ガ起ルノデアリマス、敢テ憲法上ノ議論ヲ此處テ致ス必要ハナカラウト思ヒマス  
○議長(杉田定一君) 第四ノ日程、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○元田肇君 十八名ノ委員ヲ議長指名ニ願ヒマス  
○議長(杉田定一君) 元田君發議ノ通、十八名ノ委員、議長指名ニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕  
○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——日程第五、第六ハ同一委員デアリマスルデ、是ヲ一括シテ委員長ニ報告ヲサセマス  
第五 裁判所構成法中改正法律案(加瀬 第一讀會ノ續(委員長 報告))  
〔米田武八郎君登壇〕

○米田武八郎君 裁判所構成法中ノ改正法律案、外一件ニ對シマシテ、委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此案ハ御承知ノ通、檢事ヲ任用スルニ方リマシテ、帝國大學ノ法律科卒業生ヲ第一回ノ試験ヲ經シテ、任用スルコトヲ得ル法文ヲ削ルト云フノデアリマス、委員會種々議論ガゴザイマシタケレドモ、要スルニ此案ヲ贊成スルト云フコトハ、又此條項ヲ削ル必要ハナイ、即チ反對ノ二ツニ岐レマシテゴザイマス、原案贊成ハ大體同様ノ理由ガゴザイマス、又之ガ反對ヲスルト云フニ至リマシテハ、此帝

國大學ノ法律科ノ卒業生ハ、幾年ノ勉勵ヲ爲シ、數年間數多ノ競争試験ヲ經テ卒業ヲ致シタモノデアルガ故ニ、他ノ私立學校等ヨリモ、學事ニ於テ大ニ優ルトコロガアル、今又此法ヲ廢シテシマフト云フノハ少シ早イト云フ意味ヲ以テ、此儘現存シタイト云フノガ、反對ノ理由ガゴザイマス、ソレカラ政府委員ノ方ハ絶對的ノ反對デアリケレドモ、要スルニ時期尙早シト云フ意味ヲ以テ、之ニ同意スルコトガ出來ナイト云フコトゴザイマス、結局採決ニ至リマシテ、七名ニ對スル四名ノ多數ヲ以テ、原案ヲ可決致シマシテゴザイマス、是ガ裁判所構成法ノ結果ガゴザイマス、ソレカラ辯護士法中改正法律案ニ對シマシテ、理由ハ此原案ニ付イテ居リマスルデ、詳シク申上ゲマセウカ、矢張同様ノ意味ガゴザイマス、反對者モ亦同様ノ理由ヲ以テ此案ニ同意シナイ、政府目前ノ裁判所構成法ニ反對ノ意味ト同様ノ意味テ反對セラレマシタ、結局採決ニ至リマシテ、七名ニ對スル五名ノ多數ヲ以テ、是亦原案ヲ可決致シマシタ、此段報告ヲ致シマス  
○議長(杉田定一君) 日程第五、裁判所構成法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ議題ト致シマス——小川平吉君

〔小川平吉君登壇〕  
○小川平吉君 諸君、本案ハ帝國大學ノ卒業生ニ對シテ、判檢事ニ、若クハ辯護士ニナル場合ニ試験ヲシテ採用シロト云フ案ガゴザイマス、私ハ實ハ近年此一般ノ教育ノ進歩、並ニ專門學校ノ組織、及教授法ノ整頓、學問ノ進歩、是等ノ一般ノ進歩ノ點ヨリ考ヘマシテ、今日頃ハ實ハ私立學校、即チ今日ノ私立大學ノ卒業生ニ對シテモ、無論試験ヲ以テ判檢事、若クハ辯護士ニ登用スルコトヲ許サント云フ法律ノ改正案ガ出ルデアラウト、實ハ期シテ居リマシタノデアリマス、(「ヒヤ」ト呼ビ又拍手スル者アリ)若モ是ノ如キ文運學問ノ進歩ニ適當シタ案ガ現ハレマシタラバ、私ハ雙手ヲ舉ゲテ贊成ヲ致スノデアリマス、然ルニ如何せん 本案ハ學問ノ進歩ヲ全ク無視シテ、時運ニ適シナイトコロノ逆戻リノ案ガゴザイマスルカラシテ、誠ニ敬愛スルトコロノ加瀬禮逸君ノ提出セラレマシタ法案ガゴザイマスルガ、私ハ已ムラ得ズ、茲ニ反對ノ意見ヲ簡單ニ諸君ノ前ニ述ベルノデアリマス、諸君、帝國大學ト雖モ、亦此裁判所構成法制定ノ當時ト、今日ト比較致シテ見マシタラバ、其教授、其學生ノ學問ノ進歩ト云フモノハ、矢張世上ノ學問ノ進歩ト殆ド同クシ、餘程著シク進歩ヲシテ居ルト云フコトハ、是ハ一般ニ認メテ爭フナキトコロデアラウト私ハ考ヘマス、果シテ然ラバ、十年前ニ未ダ今日程學問ノ進歩セザル時代ニ於テスラ、試験ヲ要サナカッタトコロノ帝國大學ノ學生ニ對シテ、其時ヨリモ非常ナル學問ノ進歩ヲシテ居ル今日ノ卒業學生ニ對シテ、試験ヲ要スル、試験ヲシナケレバ辯護士ニモ、判檢事ニモ採用セヌト云フコトハ、餘程是ハ不道理ナ話デアルト、私ハ申シテ差支ハナイト考ヘマス(「ノウ」ト呼ブ者アリ)諸君、提案者ハ司法部ニ適材ヲ得シガタメニ、本案ヲ提出セラレタト申シマス、果シテ本案ノ如ク致シマシタラバ(適材ヲ得ルコトガ出來ルデアリマセウカ、判檢事試験、若クハ辯護士試験ト云フモノハ、諸君如何ナルモノデアル、僅ニ二三、若クハ四五ノ問題ヲ、學問ノ一科目ニ付イテ試験官ガ出シタ、是ノ答案ニ依ッテ及第落第ヲ極メルト云フ方法ガ、出來ナイカト云フコトヲ極メルノデアリマス、運ノ好イヤツハ、一向學問ガ出來ヌデモ、幸ヒ試験官ガ出シタ問題ガ分ッテ居レバ及第スル、不幸ニシテ其他ノ事ニ付イテハ十分ニ學問ガ出來テ居ル人デアツテモ、其日出サレマシタトコロノ、試験官ノ出シタ問題ガ、不幸ニシテ分ラナカッタラバ、一般ノ學問ニ於テ進歩シテ居ル人デモ此試験ニハ落第シナケレバナラス、斯ウ云フ試験ト云フモノハ、實ニ偶然ノモノデアル、餘程僥倖ニ依ッテ

右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
裁判所構成法中改正法律案 第一讀會ノ續

運命ヲ決セラルベキ性質ヲ持テ居ルノデアル、併ナガラ諸君、外ニ若シ此判檢事、若クハ辯護士ヲ採ルニ付イテ、試験ノ途ガナイノデアルナラバ、迷惑ナガラ是ノ如キ不十分ナル試験ヲモテ、吾々ハ之ヲ行ハナケレバナラヌノデガイマス、然ルニ一方ニ於テ帝國大學、即チ言フマテモナク、立派ナ教授——立派ト申シテハ語弊ガアル、或ハ立派デナイモノガ澤山ゴザイマセウ、吾々ハ随分不感服ナモノガゴザイマスルガ、免ニ角——免ニ角今日ノ世ニ於テ、立派ナリト稱セラル、トコロノ人ガ、教授ヲシテ、試験ヲシテ、東京ニ於テハ四年、京都ニ於テハ三年ト云フモノ、間、教授ト試験トヲ繰返シ繰返シテ來テ、是等教官ノ認メテ以テ、法律學ヲ卒業シタルトナシ、此國家ノ拵ヘテ居ルトコロノ大學ト云フモノヲ卒業シテ、法律學ガ出來ルト云フ證明ヲ與ヘタモノデアル、此三年、若クハ四年、教授ヲシテ、試験ヲシテ、其結果トシテ法律學ニ堪能ナリト認メタノガ、是ガ確カ又ハ一朝ノ——一日ノ試験ヲ以テ、數箇ノ問題ノ答辯ニ依テ、答ニ依テ見タ此試験ノ方ガ正シイノデガイマセウカ、是ハ殆ド比較ニナラヌラウト思フ（高等文官試験ハ如何ト呼ブ者アリ）高等文官試験ノ如キモノハ無論廢スベキモノデアル、文官分限令ノ如キモノハ、無論廢スベキモノデアル、左様ナコトハ問フニ及バヌノデアル、諸君、又論者ハ適材ヲ得シガタメニ試験ヲスルト言ハレマスケレドモ、此試験ノ結果ト云フモノハ諸君如何ナルモノデアル、單ニ判檢事ニナル資格ガアル、即チ辯護士ニナル資格ガアル、即チ資格ヲ與ルニ過ギナイノデガイマセウカ、若シ人オラ得ヤウト思フナラバ、此資格ヲ得ルトコロノモノト云フモノハ、澤山拵ヘテアルガ宜イ、イクラデモ澤山拵ヘテアルガ宜イ、此多數ナル資格ノアル人ノ中ニ就イテ、政府當局者裁判當局者ガ、十分ニ吟味ヲシテ、十分ニ彼等ヲシテ競争ヲシメテ其中ニ就イテ人ヲ擇ベバコト適材ヲ得ラレルノデアル、資格ヲ濫リニ制限ヲシテ、判檢事ニナリ得ベキトコロノ人ノ數ヲ非常ニ少ナクシテ置イテ、此少數ノ人ノ中ニ就イテ適材ヲ擇ハウト致シマシタトコロガ、諸君如何ニシテ得ラレマセウカ、衆議院議員ヲアレ、府縣會議員ヲアレ、凡テ此公職ニ於ケル人ニナル方ハ、諸君、近年如何ナル傾キニナテ居ルカ、此被選舉人、即チ公職ニ就キ得ベキトコロノ人ノ資格ト云フモノハ、吾々ハ諸君ト共ニ年々歳々擴張シテ、其數ヲ擴張シテ云フコトニナテ居ラデアリマセウカ、何故ニ諸君、之ヲ擴張シテアル、一面ニハ權利ノ問題モアリマセウカ、其實體ニ於テハ、必ズヤ此資格ヲ有スルトコロノ人ノ數ヲ多クシテ、此多數ノ人ノ中ニ就イテ選ベハ、少數中ニ付イテ選ブヨリモ、適當ナル人材ヲ得ルト云フコトガ、即チ此資格ヲ擴張シ多數ニシタ所以デハゴザイマセウカ、官吏ヲ登庸スルニ於テ、若クハ辯護士ヲ登庸スルニ於テ、獨リ何ゾ然ラザル、矢張同コトデアル、資格ヲ與ヘルト云フコトハ、必シモ司法官ニ登庸スベシト云フコトデハナイ、資格ヲ與ヘテ置ク者ガ千人アツテモ、万人アツテモ、當局者ガ採ルト採ラヌハ任意デアル、イクラデモ資格ヲ澤山與ヘテ置イテ、國家ニ何ノ害ガアリマセウ、十分ナル競争ヲシメテ、最モ適當ナル人材ヲ得ルニハ、最モ多數ノ資格ヲ與ヘルト云フコトハ、即チ必要ナルコトデアルト、私ハ言フテ差支ナイト考ヘマス（モウ宜イト呼ブ者アリ）諸君、今日此衆議院ニ、醫師會法案ト云フモノガ出テ居ル——近キ將來ニ出テ居ル、此醫師會法案ハ、諸君モ御承知ノ通、醫師ニ對シテ將來——近キ將來ニ於テ、試験ヲ止メテシマフト云フ案デゴザイマス、至極多數ノ諸君ガ御賛成ガアツタウニ見受けマシタガ、醫師ノ方デモ今日ハ一般學術ノ進歩——學校ノ生徒ノ學問ノ進歩ノ方ニ對シテ一日ノ試験ト云フモノハ止メテシマウト云フコトニナテ居ル、此醫師法案ノ方ニ比較シテ見テモ、今日獨リ此法律界ニ向テ、段々斯ウ云フ試験ヲ止メルト云フコトニシナケレバナラヌ、時勢ニ對シテ廢メルトコロデナイ、逆サニ持ツテ往ツテ試験ヲサセルト云フコトハ、是ハ文運ノ進歩ニ違フデ、逆戻リヲシタ案ト私ハ言ハナケレ

バナラヌト思フデアルカラシテ、彼ノ醫師法案ニ賛成セラレテ、醫師ニ對シテ試験ガナクテ宜イト云フコトニ御賛成アラレマシタ諸君ハ、必ズヤ此法案ヲ否決スベシト云フコトニ、私ハ御賛成アララウト、私ハ信ツマス

○採決ヲ呼ブ者アリ

○米田武八郎君 議長

○議長(杉田定一君) 米田武八郎君

○米田武八郎君 前ニチヨト申シマシタガ、言損ヒガゴザイマスルテ、一言申上テ置キマス、七名ニ對スル四名ノ多數ト云フコトニ申シマシタガ、七名ノ議員アツテ、四名ノ多數ヲ決シマシタノデガイマス、左様御承知ヲ……

(森田卓爾君登壇)

○森田卓爾君 實ハ斯ウ云フ問題ニ付イテ、諸君ヲ煩ハスヤウナコトハナカラウト思フテ居リマシタ、然ルニ意外ニモ此問題ニ付イテ、反對者ガアツテ、而モ私共ノ最モ信賴スル、頭ノ餘程良イ小川君カラ反對ガアツタト云フノハ、私ハ意外ニ感スル、再ヒ諸君ヲ煩ハスコトニナツタ(尙反對ガ多クナルガ)ト呼ブ者アリ)第一ニ小川君ノ議論カラ取掛ツタ方ガ、手取早イト思ヘマス(ドウカ簡單ニ願ヒマス)ト呼ブ者アリ)簡單ニヤリマス、小川君ノ議論ノ一番ノ骨子ト云フモノハ餘程要領ヲ得兼ネマシタガ、漸クニシテ見付ケ出シタトコロニ據レバ、試験ト云フモノハ最早今日デハ必要ガナイ、無試験ヲ採ツテ差支ナイト斯ウ云フノデ、小川君ガ法學士デアツテ、如何ニ人カラ頼マレタニシテモ、餘リニ粗末ナ議論デアル、今日ノ場合ニ於テ、學術技藝ヲ要スル官職、若クハ職業ト云フモノハ、澤山拵ヘテアル中カラ、之ヲ採ツテ、國家ニ適當ナルトコロノモノヲ配劑スルト云フコトハ、試験ヲ採ルヨリ外方法ハナイノデ(ノウウ)「又ハ」ヒヤ「ト呼ブ者アリ」若シ此試験ト云フコトノ制度ヲ根柢カラ止メラレ得ルト云フ議論ガ立ツト云フコトニナレバ、勿論小川君ノ議論ハ立ツノデアル、併ナガラ高等文官ノ試験ト云ヒ、醫師ノ試験ト云ヒ、總テノ方面ニ向テ學術技藝ノ鑑別方法トシテハ、試験ノ制度ヨリ外ニハナイト極ツテ居ル、此論定ガ崩レザル限リニ於テハ、小川君ノ議論ノヤウナモノハ、到底越ニ持出ス餘地ハナイノデアル、サウスルト此論結ガ附キマシタ以上ハ、此試験制度ヲ置クト極ツタ以上ハ、即チ判檢事辯護士試験ニ於テ、或者ハ試験ヲシテ採ル、或者ハ無試験ヲ採ルト云フコトハ、事ノ善シ惡シヨリ、道理ノ上ニ於テ見出サレ得ルカドウカ、私ハ小川君ト同ヤウニ、學術ノ進歩致シテ居ルト思フ、一般ニ學術ガ進歩シテ居ル、私立大學モ、帝國大學モ、學術ノ上ニ於テ均シク進歩シテ居ル、私ヲシテ極端ニ言ハシムレバ、私立大學ノ方ガ、少々帝國大學ヨリ餘計ニ進歩シテ居ル、其最モ低ク見テ、ドチラモ同等デアルト致シマスレバ、私立大學ノ人ハ試験ヲシナケレバナラヌガ、帝國大學ノ人ハ試験ヲシテモ宜イト云フコトハ、數字ト云フモノヲ知り、比較ト云フモノ、知識ノアル者ノ口カラ出サレナイ答デアアル(拍手スル者アリ)ソレカラ本案ニ付イテ贊成ノ意ヲ表示ス、此間委員會デ政府委員ニ伺ヒマシタトコロガ、委員長報告ノ通、ドウシテモ試験制度ヲ認ムル以上ハ、此案ニ對シテ反對ト云フコトハ言切ラヌノデアル、困ツタ結果トシテ尙早シト云フノ言葉ヲ止メタノデ、是ハ押問答ノ末ドウシテモ道理アル反對ノ理由ヲ見出サヌカラシテ、斯ウ云フ言葉ガ出タノデアリマス、ソレカラ反對論ノ出タノハ、唯今小川君ノ言フ通、試験制度ト云フモノハ不必要デアラカラ此案モ不必要ト云フ以外ニハ論ハナイ、所デサウスレバ殘ル問題ハドウシテモ、此現行制度ヲ存置シテ置カレナイ事情

ガアル、之ヲ一ツ申上テ置ケバ、モウ諸君ノ採決ノ用意ガ十分附クト思ヒマス、現行法テハ辯護士トナルニモ、判事トナルニモ、必シモ大學ノ卒業生ノ一回試験ト云フモノハドウニモスルト云フ、斯ウ云フコトニテ居ル、サウスルト云フト、現行法ノ現行法制度ノ一番根本トナリテ居リマスル官吏登庸試験ノ一番根本法ト一般ニ——一般法トナリテ居ル高等文官任用令高等文官試験規則ト云フモノハ、意味ヲナサヌコトニナル、高等文官ト云フモノハ、チヨット申スト名ガ良イカ、實ハ奏任官——行政奏任官ヲ試験スルト云フ場合ニ於テハ、大學生モ必ズ試験ヲ經ナケレバナラヌト云フコトニテ居ル、單純ニ奏任官——高等普通ノ行政官ヲ探ルニシテモ、大學生ガソレニ成ルルケノ力ガアルカナイカ、是非試験シナケレバ危イト云フ論定ラシテ居ル、然ルニ普通ノ行政官ハドウ云フ者カト云フト、下ハ府縣ノ參事官ヨリ、上ハ各省ノ次官マデアル、其位ナ詰ラヌ者デアル、ソレニナルニスラモ大學ノヤツハ力ガアルカナイカ、検査シナケレバナラヌト云フ法ガ置イテ居ル、然ルニ人ノ生命財産ヲ左右スル、甚シキハ生殺與奪等ノ權ヲモ持テ居ル判檢事、若クハ彼ノ辯護士ナリニ、大學ノ先生方ハ試験セヌデモ認メマスルト云フ「ロヂャグ」ハドウカラ出テ來ル、ソレカラモウ一ツハ是ヲ試験スルト云フコトニナレバ、今日マデモナク高等文官ノ普通ノ試験制度ヲ置キマス際ニ、疾ウニ本案ハ出テ來ナケレバナラヌノアツダガ、茲ニ一ノ情實ガアル、道理ハ、疾ウニ改正案トシテ出テ來ナケレバナラヌ、政府案トシテ出テ來ナケレバナラヌノアツダケレドモ、内部ノ事情トシテ、法律ヲ以テ出サレナカッタ、如何ニ出サレナカッタト云フコトヲ、諸君ニ申上テ置キタイ、内部ノ事情トシテ此案ガ政府案トシテ、出シタケモ出サレナイ境遇ニナリテ居ル、第一ハ此高等文官ニ試験ヲ加ヘテ置イタトキ、ドウモ大學ノ學生ト雖モアノサマダ、一般學生ト同ジク試験シナケレバ能力ガ有アルカ無イカ認メラヌト認メラレヌ、ソレテ直ク行政命令即チ勅令ヲ以テ、一般ノ普通行政官ト雖モ、大學ノ卒業生ハ試験ヲ加ヘルト云フコトヲ拵ヘタガ、此司法官ト云フヤツハ、政府ガ手心ヲ以テ資格ヲ極メルト云フコトガ、出來ナイ、裁判所構成法カラ——法律ノ根柢カラ變ヘテ來ナケレバ、改正ハ出來ヌ、故ニ仕方ナク誰カ情實ノ一體關係ノナイ人ガ、案ヲ出シテ來ルノヲ待テ居ル、政府カラ出シキイト云フ事情ガアツダ、是ガ事情ノ一ツ、ソレカラモウ一ツハ、大學ノ卒業生即チ法學士ヲ判檢事ヤ辯護士ノ試験委員ノ前ニ出スト、トシテモナイコトガ起ル、是ハ證據ノナイコトハ申サナイ、高等文官試験ヲ大學ノ學生ニ試験シテ見タ結果ハ、諸君ハドウデス、京都帝國大學、東京帝國大學ノ法學士ガ落第スルノハドウデアル、是ハ委員會ノ速記録ヲ見ルト分リマス、私立大學ノ學生ノ出願者ト、京都帝國大學法學士ノ出願者ト較ベテ見ルト、幾ド倍ト云フ落第者ガ多イ、是ハ大變ナ話、大學ノ信任問題デアル、文部省ノ信任問題デアル、コンナコトナレバ高等文官ノ試験制度ハ置カナケレバ宜カッタ、懺悔シタラウト思フ、是ガ一ツデアル、若シ高等文官試験ヨリモ、或意味ニ於テ稍、ムツカシイ判檢事、若クハ辯護士試験ニ大學生ヲ出シテ御覽ナサイ、其マハナイコトニナル、是ハ司法省ノ方デハ人オラ得タイト云フノデ、大學生ニ向テハ必ズ此試験ガシタカラウト思フ、併ナカラ文部省ヤ大學ノサマヲ暴露スルト云フコトハ、同ジ大臣トシテハ忍ビヌコトデアル、同ジ内部閣員トシテハ忍ビヌコトデアル、是ハ私共ト雖モサウデアル、又文部省ガ大學生卒業生ノハケ口ヲ拵ヘル上ニ於テモ忍ビヌコトデアル、斯ウ云フ内部ノ事情ノタメニ、斯様ナル立派ナ改正案ガ、今日マデ政府カラ提出セラレナカッタ、此如何ニ反對デアルカラ、提出セヌノデアルト云フコトハ、事情ヲ知テ私ニハソレハ能ク分テ居ル、恐ラク滿場諸君モ司法省ナリ、裁判所社會ノコトヲ御存ジノ方ハ、確カニ竊ニ今日ハ御同情ヲ寄セラル、コト、思ヒマス、ドウカ餘リ議論ヲ費サズシテ、即決シテ戴キタイト思フ

（磯部四郎君登壇）

○磯部四郎君 此此案ニハ反對ヲ致ス者デゴザイマス、先程小川君カラシテ續々反對ノ理由ヲ述ベラレマシタガ、唯今森田君カラシテ何デモ世ノ中ハ試験ヲセナケレバイケナイカラシテ、無闇ニ試験ヲシテ、人ノ後カラ出テ來ルノヲ妨ゲタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フ趣意ノ御演説ガアツタヤウニ私ハ考ヘルノデアル、私ハ本案ニ付イテ既ニ今日マデ、却テ反對ノ意味ニ於テ心配シテ居リマシテ、今日モ調査中デアルノデゴザイマス、即チ大學出身ノ諸君ト、ソレカラ私立學校カラ出マシタコロノ方ノ御力ト、ドチラニ優劣ガアラウカト云フコトヲ、餘程心配ヲ致シマシテ調査シテ見マスルト云フト、幾ド優劣ガナイノデゴザイマス、デアリマスカラ却テ私ノ方針ハ成ルベク後進ヲ進ムルガタメ、此相當ノ監督ノ下ニアルトコロノ私立大學ノ卒業生モ、悉ク試験ナクシテ各省各官衙ノ門戸ヲ開イテ、是ヲ歡迎スルヤウナ方針ニ法律ヲ進メタイト云フ考ヲ持テ居ル、併シ杜撰ノ議論ガアツテハ恐入リマスカラ、時々其事ニ付イテ今日調査シテ居ルコトデアリマスガ、森田君ノ御議論ヲ承ルト云フト、マサカサウデハアルマイトハ存ジマセヌケレドモ、吾共ガ虚心平氣デ承テ見ルト云フト、判檢事、辯護士——現在ノ判檢事、辯護士ヲ專賣物ト致シテシマツテ、成ルベク後進ヲ門ニ入レナイ方ガ宜カラウト云フヤウナ考ヲ持テ（拍手起ル）右様ナ議論ヲナサレモ、テナカラウカト思フノデアリマス、又大學生ノ人ヤ其他ノ人ニ對シテ、高等文官試験ガアルカラ、尙判檢事ニ付イテモ、辯護士ニ付イテモ、高等文官試験ト同様ニシナケレバナラヌト云ハレル、全體高等文官試験ヲ設ケテ、サウシテ同ジ大學ノ教授セラレタ方ガ出テ居ラレテ、自分々々デ養育シタモノヲ、更ニ試験ヲシテ半歳デモ一年デモ、頭ヲ苦メルト云フコトハ、全體要ラザル御世話デアルト思フ、又今日官吏ノ中デモ相當ニ資格ソアル者ハ入レテモ、役ニ立タヌ者ハ何時デモ容赦ナク罷メテシマツテ宜イノデアリマスカラ、大抵十七八歳カラ、二十七八歳マデ、十有餘年ノ開學校デ苦ンデ、相當ノ資格ヲ備ヘテ卒業トナッタ人ハ、立派ニ御採用ニテ宜カラウト思フテ居ル、ケレドモ、云フノヲ行ハレタ人ハ、アナタ方御若イカラ御承知アリマスマイガ、明治十二三年ノ頃、大抵ナ役人ハ二十人ヤ三十人ノ役人採用ノ依頼ヲ受ケテ居ラヌコトナリ、之ガタメニ幾ド當リ前ノ職務ヲ、役八口入ノヤウナ具合カラ溜ラナクナツテ、妙ナ判任官試験官ト云フヤウナモノガ定マツタ、此試験ヲ其門ニ入レルトコトガ出來ナクナツテ、社會ニドウ云フモノガ現ハレタカト云フト、壯士ト云フ者ガ現ハレテ來タ、ナゼト云フト自分々々デ據リドコロガナクナツタトコロカラ、壯士ガ出テ來テ、サウシテ此者ガ即チ文明トカ何トカ云フ世界ニ横行シテ、時トスルト云フト、正當ナコトモゴザイマスガ、先ヅ十中八九ハ甚ダ不正ナコトヲ以テ世ニ立ツテ、警視廳ノ御厄介ニナルコトモ屬、アルヤウニ承テ居リマス、私ハ相當ノ年歴ヲ經テ、相當ノ學問ヲシタ人ハ、成ルベク是ニハ門ヲ開イテ、各省ナリ、官衙ナリ、又辯護士ナリ、何レヘデモ入レテ、其業ニ就カシムルヤウニ勸メルノガ、先進ノ人ニ私ガ深ク望ムトコロデアアルノミナラズ、社會ニ對スル殆ド義務デアラウト考ヘルノデゴザイマス、然ルニ今大學デ以テ數年ノ開立派ニ學問ヲシテ、殊ニ私共モ實ニ尊敬致シテ居リマストコロノ學術、並ニ智識ノ發達シタ方トガ、立派ナ卒業證書ヲ十名モ二十名モ名前ヲ書イテ、保證ヲ與ヘラレタ、サウ云フ立派ナ人ニ尙此上試験ヲシナケレバ辯護士ニスルトコトモ出來ヌ、或ハ判檢事ニスルトコトモ出來ナイト云フノハ、是等ノ人ヲシテ又壯士ノ群ニ加入セシムルヤウナ不都合ヲ生ジテ、國家ノ大害デアラウト信シマスカラ、寧ろソレヨリモ、森田君モ今日ヨリ方針ヲ改メラレテ、相成ルベクバ總テ、相當ノ保障アリ、且信用スベキ私立大學ノ卒業生ニモ、今後試験等ナク、卒業證書ニ依テ、各官衙ノ門戸ヲ開イテ、相當ノ職分ヲ與ヘルト云フ方ニ方針ヲ採テ、吾共ト共ニ其方ヲ御調査下サルコトヲ偏ニ願ヒマス、就キマシテ是ノ如ク卑屈極メタ原案ニ付イテ



マセヌカラ、其研究ヲスルマテ此案ノ運命ヲ繫ガシテ載キタイト云フコトヲ、提出者ニ代リマシテハゴザイマセヌガ、加瀬君ノ論ニ賛成ノ餘リ、御清聴ヲ煩ハシタ次第デゴザイマス

○議長(杉田定一君) 討論終結ニ成規ノ賛成ガアルト認メマスガ、御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス——採決致シマス、委員長ノ報告即チ本案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 訂正致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤト云フコトニ付イテ決ヲ取リマス、二讀會ヲ開クベシト云フ御方ノ起立ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第六、辯護士法中改正法律案、第一讀會ノ續……

○議長(杉田定一君) 採決致シマス、二讀會ヲ開クヤ否ヤト云フコトニ付イテ採決致シマス、二讀會ヲ開クベシト云フ御方ノ起立ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 少數ト認メマス、二讀會ヲ開クベカラズト云フコトニ決シマシタ——日程第七、蠶病豫防中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、工藤善助君

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

第二讀會

第二讀會

第八 議院法中改正法律案(藤金作君外 第一讀會ノ續(委員長報告))

〔藤金作君登壇〕

○藤金作君 議院法中改正法律案ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、本案ハ御承知ノ通り至テ簡單ナ案デゴザイマスケドモ、又本院ニ於テ最モ重大ナ關係ガアリマス故ニ去ル五日ニ第一ノ委員會ヲ開キマシテ、ウレヨリ七日八日ト兩日會ヲ開イテ、本案ハ一人ノ異議者モナク可決致シマシタ、又政府委員ニ本案ニ御同意アルヤ否ヤヲ、出席ヲ求メテ意見ヲ聽キマシタ、政府委員ハ憲法ニ附屬ノ法律ハ、成ルタケ動カサナイ方針デアリマス、併ナガラ此議院法ノ豫算會ノ期日ガ、現在十五日ノモノヲ二十一日トシテ、即チ六日ヲ延バサウト云フコトハ、數年前ノ状態ヨリモ追々豫算モ多額ニナツテ、調査モ手ノ要ルコトデアルカラ、六日間ダケノ延期ヲ同意スルコトニ内定致シテ居ルト云フコトヲ、政府委員法制局長官ヨリ答辯ニナツタ次第デゴザイマスカラシテ、幸ニ此案ガ成立致シマシテ、又貴族院ニ同リマシテモ、極メテ賛成セララル、コト、存シマス、此段報告致シマス、是ハ至テ簡單デゴザイマスカラ、讀會ヲ省略シテ結了セラレンコトヲ望ミマス、而シテ茲ニ一言述ベテ置キマスコトヲ御許ヲ願ヒタイ(「簡單々々」ト呼フ者アリ)極メテ簡單ト云フコトガ、總體此讀會ニハ病氣ガ附イテ居ルト思フ、何モ彼モ簡單々々ト申サレマスガ、私ハ此案ヲ提出シタトキニ、第一表ヨリ第十二表マデ御參考ニ出シマシタガ、豫算會ニモ此簡單病氣ガ附キマシテ、其經過ハ御覽ニナツタカ否ヤハ存シマセヌガ、第一表ヨリ第十二表マデ御覽ニナツタナラバ、斯クモ簡單病氣ガ附イテ居ラウカト云フコトヲ、大ニ感覺セララル、コト、私ハ存シマス(「委員長ハ何ヲ言フテ居ル」「簡單々々」ト呼フ者アリ)餘リ重大ノコトニ付イテ、簡單々々ト述ベラレルト、我國民ハ非常ナ不幸ヲ被ムルノデゴザイマス(「何ノ報告ヲシテ居ル」「モウ分ツタ」賛成々々)ト呼フ者アリ)餘リ簡單モ事ニ依リマスル、豫算會ノ如キモドウモ簡單ニテリマシテ(「アナタハ何ヲ報告シテ居ル」ト呼フ者アリ)豫算會ノ大略ヲ御報告シテ置カナイト、私ハ實ニ國民ニ濟マスト思フ、此豫算

會期日ヲ延バシタハカリテハ有效テナイ、願ハクハ是ダケヲ延ベレバ、ソレダケノ價格アルダケノ御調ヲ願ヒマス、豫算ニ於キマシテ非常ナ結果ヲ生ラセ居ルノテアル、二十三年度ノ豫算ニ於キマシテ、委員長ノ報告ニ依リテ、千四百七十五万八千圓餘ノ殘餘ヲ生ラセ居ル、委員長ハ何ヲ言フテ居ル、「簡單キヤ」ト呼フ者アリ、是ハ私ガ提出シタ案ア、成立シテ是ヲ有效ニシテ貰フニハ、政府アモ豫算ニハ最モ念ヲ入レテ精細ナル豫算ヲ出シテ貰ハナクテバナラヌシ、委員會ニ於テモ「簡單キヤ」ト呼フ者アリ、僅カ私ハ十分間述ベレバ宜シイノベシ、ソレモ簡單ト言フナライツマデモ述ベマス、三十三年度ニ於テハ(元田肇君)アナタノ御意見ナラバ贊成演説トシテナサルノハ宜シイガ委員長トシテ御報告ナサルコトデハアルマ、我國家ノメニ甚ダ遺憾ト思フノデ、政府ニ於テモ「簡單キヤ」(贊成シマス)ト呼フ者アリ、議院ニ於テモ慎重ニ願ヒタイト思フノデ、茲ニ證據ニテヨリ申シテ置キタイカラ、少シ聽イテ戴キタイ(議院ニ於テモ「簡單キヤ」ノ聲起ル)私ハ言論ハ望マナイノデ、又甚ダ諷刺ナラシメテアリマス、併シ期クマテ豫算ノ經過ガ杜撰ニ傾キツ、アルノハ、國民一同ガ概ハシイト思フコトアル、二十三年度ニハ百分ノ五分餘ノ殘餘金ヲ生ラセ、二十四年度ニハ二十四万九千七百七十七圓、即チ百分ノ七、一八ト云フノガ餘ツタ、二十五年年度ニハ解散ノメニ書類ハナシ、併シ三十六年度ニハ百分ノ二十二ト云フ殘餘ヲ生ラセ居ル、即チ五千五百二十一萬七千圓餘ヲ居ル、サウシテ二十七年年度ニ於テハ、戰時トハ言ヒナガラ、一億二千六百七十五萬四千圓程ノ殘餘ヲ生ラセ居ル、此譯ハ戰時ノメニ海陸軍ノ費用デ、四千四百四十四萬九千七百五十五圓ヲ餘スコトニナラセ居ルガ、是ヲ差引キマシテモ、尙八千五百三十八萬二千三百二十一圓ト云フ殘餘ヲ見テ居ル(何ヲ言フテカ分ラヌ)ト呼フ者アリ、是ダケ言ハバ分ルノデアリマス(モウ分ツ)ト呼フ者アリ、願クハ政府當局者ニ於テモ、是ノ如キ殘餘ヲ生ラセ、十分ニ使ハル、トコロ、(「簡單キヤ」)モウ宜シイト呼フ者アリ、今後ハ延期シタ以上ハ、ドウカ有效ナル豫算調査ヲシテ戴キタイ、杜撰ノ調ヲシテ貰ヒマシテハ困ルノデアル、是ヨリ二十三議會ニ提出スル案ハ、十分調査ヲスル覺悟デアリマスカラ、十分ナル御調査ヲ戴キタイト云フ希望ヲ述ベテ置ク次第デアリマス

○元田肇君 此大問題ニ對シテ、政府ハドウ云フ考デアリマセウカ、法制局長官ガ歸ッテ往キマス、簡單ナ問題デアリマセウ

○議長(杉田定一君) 採決致シマス、本案ニ付イテ二讀會ヲ開クベシト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 一讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 讀會ヲ省略シテ直クニ……

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス、委員會ノ報告通り御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、二讀會ニ於テ決議ノ通り御異議ハアリマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、本案ハ確定致シマシタ、第九債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律案、第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

議院法中改正法律案 第三讀會

第九 債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律案 第一讀會

債權者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律案

第一條 債權者カ民法第四百二十三條ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ、不動産登記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且申請書ニ同法第三十六條ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名住所若シテ債權者カ法人ナルトキハ其ノ名稱並事務所及代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第二條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登記ヲ爲スニハ不動産登記法第五十條第二項ニ依ルノ外債權者ノ氏名、住所又ハ名稱並事務所及代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産登記法第六十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且登記簿ノ旨ヲ登記權利者ニ通知スルコトヲ要ス

不動産登記法第六十二條ノ通知ハ債權者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

○高橋安爾君 是ハ別段説明スル必要モアリマスマイ

○高橋安爾君 是ハ九名ノ委員ヲ議長ガ指名ニナランコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 九名ノ委員、議長指名ニ御異議ハゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、日程第十、屯田兵土地給與規則廢止法律案、第一讀會、朗讀ヲ省略シマス

第十 屯田兵土地給與規則廢止法律案(石井信君提出) 第一讀會

屯田兵土地給與規則廢止法律案

屯田兵土地給與規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

屯田兵村ニ屬スル公有財產、營造物、事業及權利義務ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ町村又ハ部落ニ歸屬ス

屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ニ對スル國稅ノ免除ニ係ルモノハ仍從前ノ例ニ依ル

○高橋安爾君 前ニ斯ウ云フ法案ガ出テ居リマスカラ、其設ケテアル委員ニ付託セラレントコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○中西六三郎君 前ノ屯田兵土地給與規則中改正法律案ノ委員ニ付託ヲ願ヒタ

〔贊成〕ト呼フ者アリ

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 前ノ屯田兵土地給與規則中改正法律案ノ委員ニ付託スル  
ト云フアリマス  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 此委員ニ付託スルニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、日程第十一、明治三十年法律第四  
十二號廢止法律案、第一讀會、朗讀ラ省略シマス

第十一 明治三十年法律第四十二號廢止法律案(石 井信君提出)  
第一讀會

明治三十年法律第四十二號廢止法律案  
附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
○恆松隆慶君 是モ前ノ通、前ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 是モ前ノ屯田兵土地給與規則中改正法律案ノ委員ニ付  
託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、日程第十二、新聞紙條例中改正法  
律案、第一讀會、朗讀ラ省略シマス

第十二 新聞紙條例中改正法律案(橫井時雄君外三 名提出)  
第一讀會

新聞紙條例中改正法律案  
第十九條 新聞通信ヲ目的トスル電報電話ハ受信者カ之ヲ新聞紙ニ掲載ス  
ルノ前後ヲ問ハス受信者ノ承諾ナクシテ掲載シ又ハ掲載ノ目的ヲ以テ轉  
電スルコトヲ得ス電文ヲ抄略シ又ハ字句ヲ變更シタルモノ亦同シ但受信  
者カ電報電話ヲ新聞紙ニ掲載シタル後二十四時間ヲ經過シタルトキハ此  
限ニアラス

第二十八條 第十三條第十四條第十五條及第十九條ニ違フトキハ編輯人又  
ハ轉電者ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
○恆松隆慶君 是モ提出者ノ説明ヲ略シテ、九名ノ委員ヲ議長ニ於テ指名アランコ  
トヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通九名ノ委員議長指名ニ御異議ハゴザイマセ  
ヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、日程第十三、質屋取締法中改正法律  
案、第一讀會、朗讀ラ省略シマス

第十三 質屋取締法中改正法律案(藤崎朋之君外二 名提出)  
第一讀會

質屋取締法中改正法律案  
質屋取締法中左ノ通改正ス  
第二十三條中、第五條第一項及第二項ヲ「第五條第一項」ニ改ム

官報號外 明治三十九年三月十一日 衆議院議事速記録第十四號 議事日程第十一乃至第十五ノ件

○藤崎朋之君 是モ別段説明致シマセヌ、委員ニ御付託ヲ願ヒタウゴザイマス、サウシ  
テ之ニ殆ド類似シタモノガ、磯部君ノ提出シタ案ニ依ッテ委員會ガ成立ッテ居リマシテ、  
其委員會ハ恰モ本案ヲ待テツ、アル如キ傾デアリマスカラ、ドウカ其方ヘ……  
〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 何ノ委員ニ付託シテ與レト云フノデス  
○藤崎朋之君 磯部君提出ノ質屋取締法中改正法律案ガ委員付託ニナッテ居ル、  
其委員ニ御付託ニナッテ宜カラウト思フ  
〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 前ニ質屋取締法中改正法律案ノ委員ガアリマス、其委員ニ  
付託スルト云フノデスカ  
○藤崎朋之君 サウデス

○議長(杉田定一君) 其委員ニ付託スルト云フコトニ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、日程第十四、高等染織專門學校増設  
ニ關スル建議案、委員長ノ報告、瀨下秀夫君

第十四 高等染織專門學校増設ニ關スル建議案(長 委員長報告  
瀨下秀夫君外六名提出)

○瀨下秀夫君 委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、本案ハ委員會ニ於テ此増設  
ト云フコトニ付イテ意味ニ於テハ變リハゴザイマセヌガ、増設ト云フコトニ付イテハ高等染  
織專門學校ト云フ名稱ノ下ニ多少不都合ノ嫌ガゴザイマシテ、提出者ニ於テ増設ト云  
フコトヲ設立ト致シマシテ滿場一人ノ異議ナク可決致シマシタ  
〔採決〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 委員長報告通御異議ハゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、日程第十五、萬國博覽會開設ニ關ス  
ル建議案、委員長報告、渡邊修君

第十五 萬國博覽會開設ニ關スル建議案(竹内正志 委員長報告  
渡邊修君外二名提出)

○渡邊修君 萬國博覽會開設ニ關スル建議案ノ委員會ノ願未ヲ報告致シマス、議  
場モ大分寂寥ラ極メテ居リマスルシ、又諸君モ御飽キニナッテ居リマセウカラ、長イコト  
ヲ申ス必要ハアリマセヌガ、併シ此案ハ比較的的重大ナ問題デアリマスデ、反對者モア  
タノデアリマスカラ、三分バカリ御辛抱ヲ願ヒマス、本案ニ付キマシテハ、政府委員ニ參  
考ノタメ段々質問モ致シマシタガ、委員會ハ多數ヲ以テ本案ヲ可決シマシタ、尤モ反對  
者モアツタノデアリマスガ、其反對ノ理由ハ此趣意ニ於テハ別ニ反對デアリナイケレドモ、併  
ナガラ今日ノ日本ノ財政ノ狀況カラ考ヘマシテモ、萬國博覽會ヲ開クト云フノハ、マダ  
時期ガ早クハナカラウカ、政府委員ノ説明ニ依リマスルト、萬國博覽會ト云フモノヲ開  
クタメニハ最少額ニ見積ツテモ、千五百萬圓要ルデアラウ、併ナガラ此千五百萬圓ハ土  
地デアルトカ其他「ホテル」ノ準備デアルトカ云フモノハ、除イテ、直接ノ費用ガ千五百  
萬圓ハ極ク少ナク積シテ要ルデアラウト云フコトデアリマス、亞米利加若クハ佛蘭西ア  
リデヤッテ居リマス、最近ノ千九百四年ノ聖路易ノ萬國博覽會ノ經費ハ、四千九百

一七

二六五

萬圓要テ居ルノデアリマス、其次ノ千九百年ニ巴里ニ開キマシタ博覽會ノ經費ハ、四千六百五十四萬圓餘要テ居ルノデアリマス、サウ云フヤウニ非常ニ多額ノ經費ヲ要スルノデアリマスカラ、日本テヤツタトコロガ、ヤル以上ハケチナ事ヲセズニ、外國ニ耻ヂナイヤウナ博覽會ヲ開キタイ、サウスルニ千五百萬圓ハ足りナイデアラウ、隨分巨額ナ三四千萬圓、四五千萬圓位ハ要リハシナイカ、サウ云フヤウナ金ヲ今日使フト云フコトハ、財政上ニモ隨分困難デアラウ、縱シ財政が許ストモ、日本ノヤウナ斯ウ云フ島國デ、博覽會ヲ開クト云フコトニシタナラバ、ドウモ結果が面白クナイデアナイカ、寧ロ失敗ニ終ル虞ハナシカト云フヤウナ論デ、反對ノ議論ガアツタノデス、ソレヨリモ此外國人ヲ成ルベク日本ヘ集メテ、サウシテ日本デ金ヲ使ハスト云フ方ニスルニハ、大キナ萬國博覽會ト云フヤウナ、結果ノ分ラヌヤウナ大キナ看板ヲ掲ゲストモ、表向キハ矢張内國勸業博覽會ニシテ、其内容ヲ成ルベク萬國博覽會トシテ方宜クハナイカト云フヤウナ議論ヲ以テ、反對論ガアツタノデス、ソレカラ贊成ノ方ノ側ハ、日本モ一等國トナツタ以上ハ、此位ノコトハヤツテ宜イデアナイカ、唯日本ガ軍バカリ勝ツタトコロガ、實業ノ發展ヲ圖ラナケレバイカヌデアラカラ、此位ノ萬國博覽會ヲ開イテヤツテ、必ズ成功スルデアラウト云フヤウナ議論デ、要スルニ此建議案ノ趣意ヲ敷衍シテ、贊成サレタノデアリマス、其結果八名ノ出席ノ中デ、委員長ヲ併セテ二名ノ反對デ、五名ノ贊成デアリマス、尙附加ヘテ置キマスガ、政府ノテ居ルサウデアリマス、併ナカラマテ十分ニ方針ガ決定シナイ、ソレ故ニ本期ノ議會ニ向テ、博覽會ノ調査費ヲ二萬五千圓追加豫算トシテ提出スル運ビニナツテ居ルサウデアリマス、其豫算ガ通過致シマスレバ、政府ニ於キマシテハ、近キ將來ニ於テ開クトコロノ博覽會ハ、萬國博覽會ニスルカ、或ハ表面ハ矢張内國博覽會ニシテ、先年大阪デ開イタトキノヨリハモト擴張シテ、外國ノ協贊ヲ經テ、外國ノ物品中ニ陳列スルヤウニシテ、表向ハ矢張内國博覽會トスルカ、如何ニスルカ、或ハ此時期ハイツニスルカト云フヤウナ點ヲ、政府ニ於テ調査スルト云フコトデアリマス、ソレ故ニ此建議案ガ可決ニナリマスレバ、政府ハ重キヲ以テ之ヲ迎ヘテ、十分調査スル積リデアルト云フコトデアリマス、此段御報告致シマス

森本駿君登壇

○森本駿君 諸君、私ハ提出者ノ一人デアリマシテ、而シテ委員ノ一人デアリマスカラ、委員長ノ御報告ニナツタ足ラザルトコロヲ簡單ニ補フテ、サウシテ本案可決ノ趣旨ヲ明カニシテ、諸君ノ御贊同ヲ得シコトヲ希望致シマス（「簡單」ト呼フ者アリ）極ク簡單デアリマス、然ルニ委員長ハ此案ニ對シテハ、反對ノ御意見ヲ持テ居ラレタ一人デアツテ、ソレデ反對者ハ決議ヲ採ルニ當ツテ、委員長ヲ併セテ二名アツタト云フヤウナル御報告ガアツタガ、議場ニ委員長ヲ併セテ何名アツタト云フ報告ヲセラルト云フヤウナ方デ、反對說ハ明カニナツテ居ルケレドモ、贊成說ガマダ十分ニ思ヒマスカラ、足ラザルトコロヲ簡單ニ補フテ置キタイト思フノデアリマス、此案ハ萬國博覽會ヲ、我國ニ於テ開設シタイト云フコトヲ建議シタ案デアリマシテ、政府ハ如何ナル考ヲ以テ、此案ニ臨マルカト云フコトノ質問ガ起ツタ場合ニ、委員長モ報告ノアツタ通ニ、最モ此案ニ重キヲ置イテ、此建議ナシト雖モ政府ハ調査費ヲ追加豫算トシテ請求スル積リデアラガ、此案ガ可決セラレタ以上ハ、最モ重キヲ置イテ以テ大ニ參考ニ之ヲ供シタイ考デアルト云フ、意思ヲ明カニセラレテ、同情ヲ以テ迎ヘラレテ居ツタデアル、而シテ我國ノ近キ將來ニ於テ、萬國博覽會ヲ開クト云フコトハ、餘程文運ノ進化ニ資スルトコロアリト信ジマスカラ、成ルベク諸君ハ眼光ヲ廣クシ、且膽力ヲ大キクシテ保守ノ考ヲ去ツテ、サウシテ萬國博覽會ヲ我國ニ開設スルヤウナ、機運ヲ與ヘラレンコトヲ切ニ希望シマス、何卒御贊同アラント云フ望ミマス

○福井三郎君 本員ハ此案ニ反對ナノデアリマス（「簡單々々」ト呼フ者アリ）簡單ニト言ヒタイケレドモ、頗ル長ク其趣旨ヲ説明シマス

○議長（杉田定一君） 登壇シテ御ヤリナサイ

○福井三郎君 イヤ、極ク短カウゴザイマスカラ、此所デ……本案ハ私ノ同縣人デアルトコロノ竹内君ノ提出、而モ敬愛スベキ櫻井君、否ナ、森本君ノ贊成演說ガアツタノデアル、旁ノ縁故ヲ以テスレバ、少々意ヲ任ゲテモ贊成シナケレバナラヌ筋合デアリマスカレドモ、ソレニモ拘ハラズ國家ノ大事トシテハ、友誼上私ハ忍ブベカラザルヲ忍ビテ反對スルノデアル、是ハ戰捷紀念ト云フコトデゴザイマス、成程戰爭ハ紀念スルニ足ルハ、戰捷紀念タケレドモ、其戰ノ結果トシテ「ボトツマウス」カラ齋ラシタル條約ノ結果ノ如キハ、餘リ紀念ニ價スルコトデアモナカラウト思フ、殊ニ其結果ニ顧ミマシテモ、今日ハ戰捷ヲ兜ノ緒ヲ締メルトキデア、無暗ニ萬國博覽會ナドト云フテ、國民ノ懷中ヲ絞テ散財スルノ時期デアゴザイマス、故ニ膽ヲ大キク持ツテセヨナド、云フコトモアリマシタガ、餘リ膽ヲ大キク持ツト、膽拔ケニナツテシマヒマス、少シク用意周到細心翼翼々々今日ハ最モ考ヲ要スルトキデアラウト思ヒマス、故ニ今是ノ如キ御祭り騒ギヲセストモ、紀念ノ道外ニイクラモアリマセウカラ、希クバ勝ツテ兜ノ緒ヲ締メル所以ヲ以テ、是等ニ反對セラレンコトヲ望ミマス

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○竹内正志君 今福井君ハ誤解ガアツタヤウデスカラ、誤解ダケヲ正シテ置カウト思ヒマス、萬國博覽會ヲ開クト云フコトハ、御祭り騒ギヲスルコトデアラ、澤山ノ金ヲ使ツテ御祭り騒ギヲスル時節デアハアルマ、戰捷ノ結果バドウデアラ、ト云フ御說デアリマシタガ、私ノ趣意ハ此建議案ニ書イテアリマス通、御祭り騒ギヲスル、無暗ニ金ヲ使ツテ、御祭り騒ギヲスルト云フヤウナ趣意デア出シタモノデアリマセヌ、若シ此議場ガソレ程程度ノ低いモノナラバ致方ハナイノデスガ、是ニ付イテ誤解ハアルマイト思ヒマス、福井君ハ少シク此案ノ性質ヲ瞭解サレテ居ルト思ヒマスガ、ソレガタメニ議場ニ此等ガ容レラレヌト云フコトガアツテハ、遺憾デアリマスカラ一言致シテ置キマス

○議長（杉田定一君） 採決致シマス、委員長ノ報告ニ御同意ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス 起立者

○議長（杉田定一君） 多數デアリマス

〔少數々々〕又「異議アリ」ト呼フ者アリ

○議長（杉田定一君） 多數デアリマス

○福井三郎君 異議ガアリマス

〔「異議アリ」異議アリ〕ト呼フ者アリ

○議長（杉田定一君） 反對ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス 起立者

○議長（杉田定一君） 前ノハ多數ト認メマシタケレドモ、ドウモ判明シ難キトコロガアリマスレバ、記名投票ヲ以テ決シマス

〔元田肇君「定數ガアリマスカ」ト呼ビ恆松隆慶君「定數ガ關ケマシタカラ、今日ハ是デ御止メテ願ヒタウゴザイマス」ト呼フ〕

○議長（杉田定一君） 定足數ニ不足ガアリマスレバ、今日ハ是ニテ散會ヲ致シマス、次ノ日程ハ追テ御報告ヲ致シマス

午後四時二十二分散會

衆議院議事速記録第十三號正誤

頁段 行 誤 正  
二一 上 一八 間デアル 十八日間デア